



平成25年度

# 事業報告書

学校法人 専修大学

## 学校法人専修大学 平成25年度事業報告書

【根拠条文】	私立学校法第47条
【事業年度】	平成25年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
【法人名】	学校法人専修大学
【英訳名】	Senshu University Educational Foundation
【代表者】	理事長 日高 義博
【法人所在地】	〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8-1
【URL】	<a href="http://www.senshu-u.ac.jp/index.html">http://www.senshu-u.ac.jp/index.html</a>
【事務連絡先】	総合企画広報室 総合企画課 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8 電話 03-3265-5839

### 目次

理事長挨拶	1
建学の精神と21世紀ビジョン	2
沿革	3
I 法人の概要	
1 学校法人専修大学組織図(平成26年3月31日現在)	4
2 所在地(平成26年3月31日現在)	5
3 学生数(平成25年5月1日現在)	5
4 入学志願者数の推移(学部・学科)	7
5 役員・教職員の状況(平成26年3月31日現在)	7
II トピックス	
専修大学	9
石巻専修大学	11
III 事業の概要	
主な事業の目的・計画及び進捗状況	
1 教育・研究力の強化	12
2 競争力のある大学の創造	14
3 学生支援の充実	15
4 ブランド力の強化	17
5 社会・地域貢献活動の充実	19
6 経営基盤の強化	20
7 専修大学北海道短期大学に係る対応	21
IV 決算の概要	
1 資金収支計算書	22
2 消費収支計算書	25
3 貸借対照表	27
4 学校法人が作成する計算書類について	29
V その他の資料	
1 平成25年度卒業・修了者数	30
2 卒業後の進路(学部・学科)	31
3 公開講座等の開講状況	32
4 平成25年度学費	34
5 国際交流協定校・国際交流組織間協定校(平成26年3月31日現在)	37
6 付属校	37

\*本報告書について、第三者による無断複製・転用・公開を禁止します。

表紙の写真は、平成26年3月に竣工した神田5号館である。



学校法人専修大学の平成25年度事業報告書をまとめましたので、ここに報告いたします。

本学は、21世紀ビジョン「社会知性の開発」を達成するために、「学生を基本に据えた大学づくり」を大学運営の基本理念に掲げ、社会の屋台骨を支える有為な人材の育成に努めるとともに、骨太の大学改革に取り組んでいます。平成25年度は、策定した事業計画に基づき、教育・研究力の強化、競争力のある大学の創造、学生支援の充実、ブランド力の強化、社会・地域貢献活動の充実等に注力してまいりました。

専修大学は、魅力ある教育研究環境を再構築するべく、神田及び生田のキャンパス整備を推進しました。神田キャンパスについては、主に教室と学習支援機能を配置した新たな神田5号館が3月に竣工しました。生田キャンパスにおいては、専修大学国際交流会館(仮称)、生田新体育寮・新体育館(仮称)の建設を進めるとともに、生田3号館跡地を活用する再開発について大学院・研究室を中心とした高層棟校舎と学生のアクティブ・ラーニング空間を中心とする低層棟校舎を建設する基本構想を策定しました。現在、2号館の解体工事及び新校舎の具体的な設計を進めています。学士課程の教育については、教育の質的向上を図るため、平成26年度入学者に、新たな学士課程教育(新カリキュラム)を適用することを決定し、準備を進めました。新カリキュラムは、「転換教育課程(専修大学入門科目)」「導入教育課程(専修大学基礎科目)」「教養教育課程(教養科目)」及び「専門教育課程(専門科目)」の4領域からなる三層で構成され、教育課程全体の体系的・順次性を確保し、かつカリキュラム編成上における教養教育と専門教育の有機的連携を実現するものとなります。さらに、成績評価の厳格性と公正性を一層保障するため、成績評価基準を改正し、併せて成績評価区分も変更しました。また、実践的かつ先端的な教育研究を展開し、かつ学内の学術交流を活性させるため、高度な専門性を有する人材を登用する「特任教員」及び「客員教員」の制度を導入しました。本年度は、制度運用に係る条件・環境を整備し、採用手続を進め、平成26年度から、「特任教員」4名、「客員教員」1名を採用します。大学院は、「第2次大学院教育振興施策要項」(文部科学大臣決定)を改革の指針として、教育の質の向上に取り組みました。法科大学院は、平成24年度に実施された独立行政法人大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価結果を受け、指摘事項についての学則改定や入学予定者を対象にした導入授業の改正を実施しました。研究力の強化にあたっては、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に選定された研究プロジェクトをはじめとする5つの研究拠点を展開させました。また、新たなプロジェクトの採択や外部研究資金の獲得増加に向けた支援体制を強化し、平成25年度の科学研究費助成事業の交付決定数については前年度比9.6%増となっています。

石巻専修大学は、教育組織に係る改革として、平成25年4月に、地域における「文化・教育」の持続的発展に貢献する人材を育成するために、新たに「人間学部(人間文化学科・人間教育学科)」を開設しました。さらに、地域の「産業・技術」を支え、牽引する人材を輩出するべく、理工学部を改組し、「食環境学科」及び「生物科学科」を設置しました。また、教育の質保証に向けた取り組みとして、平成24年度に試行導入した「GPA制度」を正式に導入し、厳格な成績評価を推進するとともに、GPA制度に基づく学習指導に注力しました。大学の特色のひとつである地域貢献については、「復興共生プロジェクト」において、被災者支援や産業支援、防災・復興に係る研究など、復興に向けた多岐に亘る事業を地域とともに展開しました。さらに、地域活性化と産業の振興のために産業基盤となる研究開発、技術相談、経営相談など、産学官の連携を推進するほか、石巻専修大学開放講座や「復興ボランティア学」などを開講し、積極的な「知の発信」を進めました。

グローバル化や情報化の進展に伴う社会の急激な変化、また、4・5年後から再び加速する18歳人口の減少により、大学間競争が一層の激しさを増すことは必至です。しかし、本学は法人と教学が一体となり、大学としての品格を保ちながら、従前にも増して「社会知性の開発」に専心し、「大学改革の時代」を乗り越えていく所存です。

学校法人専修大学理事長

日高義博





専修大学は、1880年(明治13年)に相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の4人の青年たちによって創立されました。幕末の動乱を生き抜いた創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガースの各大学に留学し、強靱な精神力を持って約8年の勉学に励みました。海外から黎明期にあった日本の国の形を考え、日本の発展のために、修得した最新の知見を社会に還元しようとした彼らは、高等教育によって社会の屋台骨を支える有為な人材を育成するという「熱き思い」を抱いたのです。そして帰国後、日本語により経済学や法律学を教授するために、本学の前身である「専修学校」を創立しました。明治10年代は、明治政府による法律の整備が進み、憲法制定や条約改正を求める声も一段と大きくなった時期でもあり、いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。

爾来、本学は、関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体に降りかかる大きな荒波を乗り越え、更なる発展を遂げなければなりません。本学の進むべき指針を熟慮するにあたり、常に創立の原点に立ち返ることで、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は、建学の精神を現代的に捉え直した「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」を21世紀ビジョンに据えました。「社会知性の開発」をどう具現化するのかについては、学部あるいは研究科によって方法論も力点も自ずから異なりますが、各部局において、積極的かつ真摯な取り組みがなされています。



相馬 永胤  
(そうま ながたね)



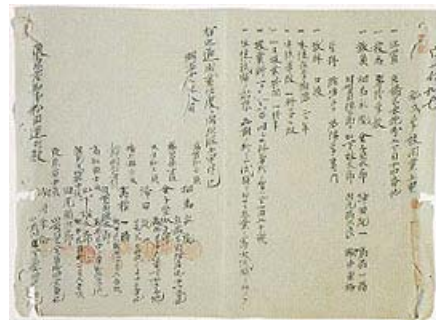
田尻 稲次郎  
(たじり いなじろう)



目賀田 種太郎  
(めがた たねたろう)



駒井 重格  
(こまい しげただ)



専修学校(専修大学の前身)の開業上申

## 専修大学 21世紀ビジョン

### 「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」

社会知性とは、

「専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力」である。

※掲載した「開業上申」は東京都公文書館、目賀田種太郎(写真)は大垣市奥の細道むすびの地記念館が所蔵。

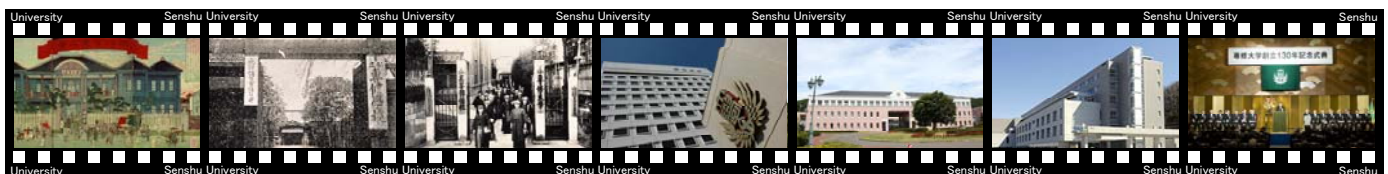


1880年	明治13年	日本語による経済・法律専攻の専修学校（夜間2年制）設立 ※1 京橋区南鍋町の仮校舎から木挽町の本校舎へ移る ※2
1885年	18年	神田区今川小路の校地（現在の神田校舎敷地）に校舎を新築、移転 ※3
1903年	36年	専門学校令による専修学校となる
1913年	大正2年	校名を私立専修大学と改称
1919年	8年	校名を専修大学と改称
1922年	11年	大学令により大学として認可
1923年	12年	大学令による専修大学を設置、経済学部を開設
1927年	昭和2年	法学部設置
1948年	23年	川崎市生田に校地・建物を取得、新校舎に改装
1949年	24年	学制改革による新制大学となり商経学部・法学部の2学部で発足
1952年	27年	大学院経済学研究科修士課程設置
1954年	29年	大学院法学研究科修士課程設置
1955年	30年	大学院経済学研究科・法学研究科博士課程設置
1962年	37年	経営学部設置
1963年	38年	商経学部を経済学部と改称
1965年	40年	商学部設置
1966年	41年	文学部設置
1968年	43年	農業機械科・農業土木科・農業経営科を擁し専修大学美唄農工短期大学開学
1971年	46年	大学院文学研究科修士課程設置 大学院文学研究科博士課程設置
1973年	48年	専修大学美唄農工短期大学を専修大学北海道短期大学と改称し、土木科・商科・農業機械科の3科に改組
1975年	50年	大学院経営学研究科・商学研究科修士課程設置
1977年	52年	大学院経営学研究科・商学研究科博士課程設置
1979年	54年	創立100年記念式典を日本武道館で挙行
1983年	58年	専修大学北海道短期大学造園林学科・経済科設置
1989年	平成元年	理工学部・経営学部を擁し石巻専修大学開学
1993年	5年	石巻専修大学大学院理工学研究科、経営学研究科修士課程設置
1995年	7年	石巻専修大学大学院理工学研究科博士後期課程設置
1997年	9年	石巻専修大学大学院経営学研究科博士後期課程設置
2001年	13年	ネットワーク情報学部設置
2003年	15年	専修大学北海道短期大学土木科を環境システム科、農業機械科を農業科学科、造園林学科を園芸緑地科に名称変更
2004年	16年	専門職大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻設置
2006年	18年	専修大学北海道短期大学環境システム科・農業科学科・園芸緑地科をみどりの総合科学科に、商科・経済科を商経社会総合学科とし、2学科編成に改組
2009年	21年	専修大学サテライトキャンパス設置
2010年	22年	人間科学部設置 石巻専修大学人間学部（人間文化学科・人間教育学科）設置
2013年	25年	理工学部基礎理学科・生物生産工学科を理工学部食環境学科・生物科学科に改組 神田5号館竣工

※1 1880年（明治13）9月に開校した専修学校（専修大学の前身）は日本最初の経済専門学校であり、初の私立法律専門学校であった。この当時法学を教える高等教育機関は、東京大学の法学部と司法省の法学校の2つにすぎず、英語や仏語で教授していたのに対し、専修学校は日本語で教授するという画期的な授業を行った。

※2 現在、東京都中央区銀座3丁目、歌舞伎座裏（旧京橋区木挽町2丁目14番地）には専修大学発祥の地碑が建立されている。

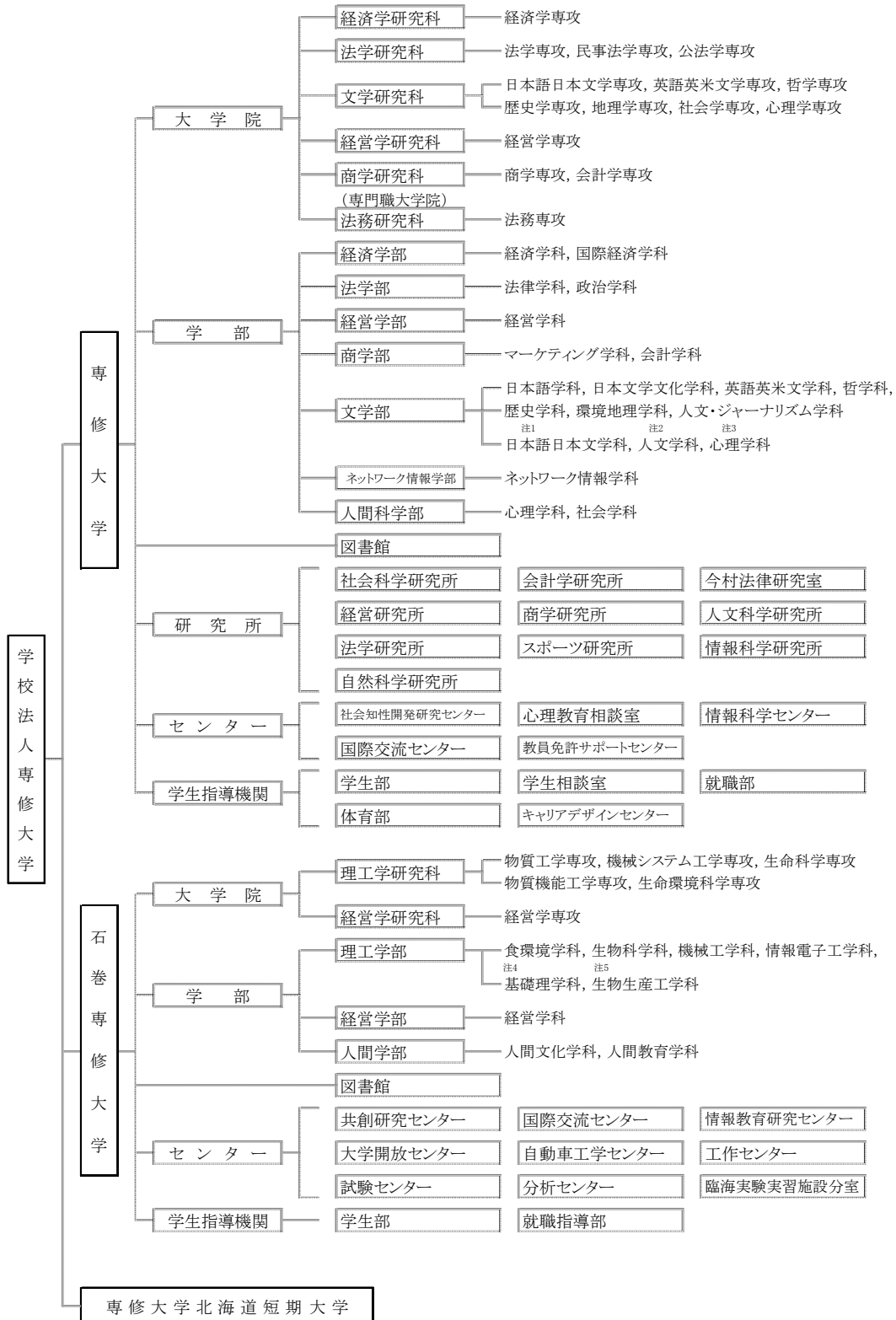
※3 1884年（明治17）、旧旗本屋敷跡を校地として買い求め、翌年神田区今川小路に自前の校舎を新築した。このとき、元々あったと思われる黒塗りの冠木門（柱の上方に横木を渡した屋根のない門）を校門に使用にしたことから、当時、東大の「赤門」に対して「黒門」といわれ、黒門といえば専修学校を意味することとなった。





# I 法人の概要

## 1 学校法人専修大学組織図(平成26年3月31日現在)



専修大学北海道短期大学は、平成23年度以降の学生募集を停止し、廃止手続を進めている。

注1: 日本語日本文学科は、平成22年度以降の学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。  
 注2: 人文学科は、平成22年度以降の学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。  
 注3: 心理学科は、平成22年度以降の学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。  
 注4: 基礎理学科は、平成25年度以降の学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。  
 注5: 生物生産工学科は、平成25年度以降の学生募集を停止しているが、当該学科に学生が在学する間、経過措置により存続する。

## 2 所在地(平成26年3月31日現在)

- (1) 専修大学  
 神田キャンパス 〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8  
 生田キャンパス 〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1  
 サテライトキャンパス 〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸2130-2  
 伊勢原総合グラウンド 〒259-1111 神奈川県伊勢原市西富岡163
- (2) 石巻専修大学  
 石巻キャンパス 〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1
- (3) 専修大学北海道短期大学  
 美唄キャンパス 〒079-0197 北海道美唄市字美唄1610-1
- (4) セミナーハウス・研修館  
 箱根セミナーハウス 〒250-0522 神奈川県足柄下郡箱根町元箱根字大芝103-38  
 伊勢原セミナーハウス 〒259-1111 神奈川県伊勢原市西富岡1080-1  
 軽井沢セミナーハウス 〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町南軽井沢1398  
 山中湖セミナーハウス 〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中字南中原273-18  
 富士山中湖セミナーハウス 〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村平野字切詰479-56  
 御宿セミナーハウス 〒299-5105 千葉県夷隅郡御宿町岩和田705  
 生田研修館 〒214-0031 神奈川県川崎市多摩区東生田1-12-9  
 国際研修館 〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枋形5-1-1  
 相馬記念会館 〒079-0197 北海道美唄市字美唄1610-1

## 3 学生数(平成25年5月1日現在)

### (1) 専修大学

(学部)

区分	学部	学科〔専攻〕	入学定員	収容定員	入学者数	現員	
一部	経済学部	経済学科	480	1,920	558	2,365	
		国際経済学科	200	800	240	973	
	法学部	法律学科	550	2,200	633	2,633	
		政治学科	150	600	161	707	
	経営学部	経営学科	530	2,120	619	2,530	
	商学部	マーケティング学科	440	1,760	529	2,186	
		会計学科	220	880	245	1,049	
	文学部	日本語日本文学科					
			日本語専攻	—	—	—	23
			日本文学文化専攻	—	—	—	22
			日本語学科	70	280	84	321
			日本文学文化学科	110	440	133	518
			英語英米文学科	140	560	167	702
		人文学科					
			哲学人間学専攻	—	—	—	20
			歴史学専攻	—	—	—	29
			環境地理学専攻	—	—	—	15
			社会学専攻	—	—	—	24
			哲学科	70	280	80	312
			歴史学科	130	520	172	585
			環境地理学科	50	200	63	239
		人文・ジャーナリズム学科	90	360	108	435	
		心理学科	—	—	—	15	
	ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	230	920	254	1,069	
	人間科学部	心理学科	70	280	94	318	
		社会学科	120	480	145	580	
	一部計		3,650	14,600	4,285	17,670	
二部	経済学部	経済学科	100	400	121	498	
	法学部	法律学科	150	600	173	681	
	商学部	マーケティング学科	100	400	122	520	
	二部計		350	1,400	416	1,699	
	学部合計		4,000	16,000	4,701	19,369	

※文学部日本語日本文学科は、平成22年4月から学生募集停止

※文学部人文学科は、平成22年4月から学生募集停止

※文学部心理学科は、平成22年4月から学生募集停止

## (大学院)

課程	研究科	専攻	入学定員	収容定員	入学者数	現員
修士	経済学	経済学	30	60	16	35
	法学	法学	25	50	6	18
	文学	日本語日本文学	10	20	11	18
		英語英米文学	5	10	3	3
		哲学	5	10	2	6
		歴史学	10	20	5	17
		地理学	5	10	2	3
		社会学	5	10	1	6
		心理学	10	20	10	28
	経営学	経営学	20	40	11	24
	商学	商学	10	20	5	12
		会計学	15	30	15	28
	修士課程計			150	300	87
博士後期	経済学	経済学	3	9	2	7
	法学	民事法学	3	9	1	2
		公法学	3	9	0	2
	文学	日本語日本文学	3	9	2	11
		英語英米文学	2	6	1	5
		哲学	2	6	1	2
		歴史学	5	15	2	14
		地理学	3	9	0	0
		社会学	3	9	0	4
		心理学	3	9	2	9
	経営学	経営学	3	9	0	3
	商学	商学	2	6	1	2
		会計学	2	6	1	1
博士後期課程計			37	111	13	62
大学院合計			187	411	100	260

## (専門職大学院)

課程	研究科	専攻	入学定員	収容定員	入学者数	現員
専門職学位	法務	法務	55	165	29	96

※収容定員について

- 平成23年度より入学定員を60名から55名に変更した。
- 修業年限は、法学未修者が3年、法学既修者が2年であるため、平成25年度の実収容定員は135名となる。

## (2) 石巻専修大学

## (学部)

学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	入学者数	現員
理工学部	基礎理学科	—	8	211	—	114
	機械工学科	40	8	191	19	158
	情報電子工学科	40	8	191	24	146
	生物生産工学科	—	8	151	—	148
	食環境学科	40	—	40	26	26
	生物科学科	40	—	40	66	66
経営学部	経営学科	200	35	990	97	677
人間学部	人間文化学科	40	—	40	8	8
	人間教育学科	40	—	40	27	27
学部合計		440	67	1,894	267	1,370

※人間学部は平成25年4月設置

※理工学部食環境学科、生物科学科は平成25年4月設置

※理工学部基礎理学科、生物生産工学科は平成25年4月から学生募集停止

## (大学院)

課程	研究科	専攻	入学定員	収容定員	入学者数	現員
修士	理工学	物質工学	5	10	2	5
		機械システム工学	5	10	0	1
		生命科学	5	10	4	7
	経営学	経営学	5	10	3	5
修士課程計			20	40	9	18
博士後期	理工学	物質機能工学	3	9	0	1
		生命環境科学	3	9	0	4
	経営学	経営学	3	9	2	3
博士後期課程計			9	27	2	8
大学院合計			29	67	11	26



## 4 入学志願者数の推移(学部・学科)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
専修大学	38,006	38,169	39,834	36,454	35,194
石巻専修大学	815	613	522	601	825
専修大学北海道短期大学	169	—	—	—	—

※専修大学北海道短期大学は平成23年4月から学生募集停止

## 5 役員・教職員の状況(平成26年3月31日現在)

学校法人専修大学は、平成25年7月3日開催の理事会において、任期満了に伴う次期専修大学長の選任を行い、矢野建一文学部教授を選任(新任)した。任期は、平成25年9月1日から平成28年8月31日までの3年間。

また、平成25年9月25日開催の理事会において、「専修大学長を補佐する副学長に関する取扱い内規」に基づき、坂本武憲法学部教授を副学長に選任した。任期は、平成25年9月25日から平成28年8月31日まで(ただし、専修大学長の任期と同じとする)。

### (1) 役員

総長 (空席)  
 理事長 日高 義博  
 専務理事 富山 尚徳  
 常務理事 市川 辰雄 佐藤 猛 田中 實 松木 健一 湯浅 敏明  
 理事 小豆畑 孝 甘竹 秀雄 宇都 榮子 江原 淳 岡村 誠男  
       小野 博良 金子 洋之 工藤 正義 [専修大学北海道短期大学長]  
       坂田 隆 [石巻専修大学長] 坂本 武憲 佐々木 重人 白藤 博行  
       波岡 實 西島 篤師 馬場 杉夫 福島 利夫 宮岡 孝之  
       桃野 直樹 矢野 建一 [専修大学長]  
 常勤監事 今野 健吾  
 監事 小宮 多喜次  
       瀧本 和男

(五十音順)

### (2) 評議員

学校法人専修大学寄附行為第23条第1項による選任区分	現員数
第1号 総長(寄附行為第5条の規定による推戴がある場合のみ)・学長・短期大学長	3
第2号 卒業生のうちから評議員会において選任された者	43
第3号 職員のうちから理事会において選任された者	22
第4号 学識経験者として、理事会において選任された者	11

### (3) 顧問

現員数 2人

#### (4) 教 員

専修大学

	専 任					兼 任		合 計
	教授	准教授	講師	助教	計	客員教員・ 非常勤講師	任期制助手	
経 済 学 部	62	11	1	1	75	118	0	193
法 学 部	41	22	2	1	66	119	0	185
経 営 学 部	34	18	3	0	55	93	1	149
商 学 部	49	19	5	0	73	114	0	187
文 学 部	69	13	1	0	83	152	2	237
ネットワーク情報学部	17	8	1	0	26	68	0	94
人 間 科 学 部	17	10	1	0	28	51	0	79
法 科 大 学 院	13	2	1	0	16	24	0	40
法学部・法科大学院 併 任	2	1	0	0	3	0	0	3
計	304	104	15	2	425	739	3	1,167

※学長は、文学部教授に含む。

※法学部専任教授及び法科大学院専任教授には、法学部・法科大学院併任教員3名は含まない。

※経営学部兼任1名・人間科学部兼任1名は、非常勤嘱託を兼ねており、それぞれに計上している。

※大学院任期制助手は、所属研究科の基礎となる学部の人数に含む。

※経済学部兼任には、大学院客員教員(経済学研究科)6名を含む。

※法科大学院兼任には、法科大学院客員教員15名を含む。

※兼任教員は、年度途中で依頼退職した教員を除き、平成25年度に在職した教員数を計上している。

石巻専修大学

	専 任					兼 任		合 計	
	教授	准教授	講師	助教	助手	計	特命教員・ 客員教員・ 非常勤講師		非常勤助手
理 工 学 部	35	8	2	0	1	46	37	2	85
経 営 学 部	19	5	0	1	0	25	20	0	45
人 間 学 部	16	6	0	2	0	24	18	0	42
計	70	19	2	3	1	95	75	2	172

※学長は、理工学部教授に含む。

※理工学部教授には、特任教授1名を含む。

※理工学部准教授には、特任准教授1名を含む。

※経営学部教授には、特任教授2名を含む。

※理工学部兼任には、特命教員2名及び客員教員4名を含む。

※経営学部兼任には、特命教員4名及び客員教員1名を含む。

※人間学部兼任には、特命教員1名及び客員教員4名を含む。

#### (5) 職 員

専修大学

区 分	人 数
実 習 助 手	2
職 員	313
常 勤 嘱 託	42
特 別 嘱 託	8
非 常 勤 嘱 託	199
雇 員	80
計	644

石巻専修大学

区 分	人 数
職 員	29
特 別 職 員	1
常 勤 嘱 託	8
特 別 嘱 託	1
非 常 勤 嘱 託	4
雇 員	2
計	45

※職員には、専修大学北海道美唄事務所勤務者2名を含む。

※常勤嘱託には、専修大学北海道美唄事務所勤務者4名を含む。

※非常勤嘱託には、社会知性開発研究センターPD(ポスト・ドクター)・RA(リサーチ・アシスタント)及び専修大学北海道美唄事務所勤務者2名を含む。

※非常勤嘱託を複数発令されている者は、発令件数分計上する。



## Ⅱ トピックス

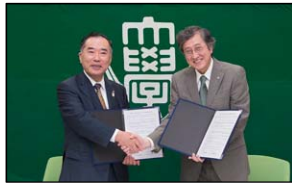
### 【専修大学】

#### 川崎商工会議所と「メコン地域調査研究実施の覚書」を締結

専修大学と川崎商工会議所は、平成25年6月18日に、メコン地域5カ国(ベトナム、ラオス、カンボジア、タイ、ミャンマー)を対象とした、現地中小企業の活動実態の調査研究を共同で行うことで合意し「覚書」を締結した。

調査研究は、本学社会知性開発研究センターに新たに発足した研究拠点「国際経営研究センター」が川崎商工会議所と共同で、約2年間実施する。

現地中小企業の活動を製造、流通、物流という実際の価値連鎖の視点から分析を行うとともに、人的ネットワークを形成することにより、川崎地域の中小企業・ベンチャー企業の発展成長を図り、地域経済活性化に寄与する。



#### 南開大学法学院(中国)と「組織間協定方式による国際交流協定」を締結

専修大学法学部は、平成25年7月2日に、中国の南開大学法学院と組織間協定方式による国際交流協定を締結した。

今後、研究者の交換、資料調査研究、学術交流シンポジウムの開催や学生間の交流が予定される。

さらに、今年度の本学研究助成を受けている共同研究課題「法の循環—21世紀東アジアにおける法発展の構造分析と課題探索」(代表者・広渡清吾教授)を基礎に新たな研究プロジェクトの立ち上げが双方の教員により検討される。



#### フェンシング部の活躍

専修大学フェンシング部は、平成25年6月2日に行われた「第63回全日本学生フェンシング王座決定戦」において、女子サーブルが優勝を決めた。

さらに、平成25年11月に行われた「全日本学生フェンシング選手権大会」において団体で、男子エペが32年ぶりの優勝、女子フルーレは準優勝。個人では男子サーブルで張眞龍太さん(経済学部3年次)が優勝を勝ち取った。

#### ユニバーシアード競技大会で専大生が大活躍

第27回ユニバーシアード競技大会(開催日:平成25年7月6日から17日 開催地:ロシア・カザン)において、日本代表となった専大生が大活躍した。卓球競技では、鈴木李茄さん(商学部1年次)が女子団体、混合ダブルスとともに優勝を果たした。



また、サッカー競技では、長澤和輝さん(経営学部4年次)、下田北斗さん(人間科学部4年次)、北爪健吾さん(法学部3年次)、仲川輝人さん(商学部3年次)が出場し、3位となり銅メダルを獲得した。

その他競技においても、バスケットボール競技に2名、フェンシング競技に1名、バトミントン競技に1名が出場し活躍を見せた。

さらに、第26回ユニバーシアード冬季競技大会(開催日:平成25年12月11日から21日 開催地:イタリア・トレンティーノ)において、ノルディックスキー複合の個人第2戦(クロスカントリーを先に行うマススタート方式)で、清水亜久里さん(商学部4年次)が268.5点で優勝し、2大会連続となる金メダルを獲得した。



※ユニバーシアードとは、国際大学スポーツ連盟が主催する総合競技大会。一般に「学生のためのオリンピック」といわれている。2年に一度開催され、夏季大会と冬季大会がある。

#### 「ギメ美術館」で現代日本の書代表作家展

「現代日本の書代表作家パリ展 SHO2」(開催日:平成25年10月23日から平成26年1月13日 開催地:国立ギメ東洋美術館(フランス・パリ)主催:フランス国立ギメ東洋美術館、毎日書道会)の開幕式で、仲川恭司文学部教授は、書道家代表の6人の一人として揮毫を行った。会場の「ギメ美術館」は、西欧における東洋美術の殿堂で、同展は昨春の「SHO1」に続く2回目の開催となる。毎日書道会を代表して、1回目の41人を上回る100人が出展。仲川教授は、春先の疾風を捉えた大字書「風(春の嵐)」を出展した。



## 社会科学研究所国際シンポジウムをハノイで開催

専修大学社会科学研究所とベトナム社会科学院は、日本・ベトナム外交関係樹立40周年記念国際シンポジウム「越日関係：40年の回顧と将来の方向性」を、平成25年9月3・4日にベトナムのハノイ市で開催した。

本学から18名が参加、5人がテーマ別に発表し、2日間にわたる国際シンポジウムを盛り上げた。



## 専修大学体育会 創立80周年記念式典・祝賀会の開催

専修大学体育会は、平成25年12月14日に東京・ホテルグランドパレスにて創立80周年記念式典・祝賀会を開催した。専修大学体育会は、数々の栄光の歴史を刻み、スポーツ界をリードする優秀な選手を輩出してきた。現在も、サッカー部の関東大学リーグ3連覇など、輝かしい結果を残している。

式典では、オリンピック・世界選手権などの出場者、優秀団体の指導者などに対し功労賞、特別功労賞などが贈られた。

## 「社会人基礎力育成グランプリ」関東地区大会で優秀賞を受賞

平成25年12月8日に、「社会人基礎力育成グランプリ2014」(社会人基礎力協議会主催・経済産業省共催)関東地区予選大会が東京都内で開催され、商学部前川明彦ゼミの3年次生9名が、最高賞の優秀賞を受賞した。「社会人基礎力グランプリ」は、大学の授業・活動を通じて、学生の「社会人基礎力」がどれだけ成長したかを競う大会である。

前川ゼミの学生9名は、「多摩区の魅力発信プロジェクト～地域と学生でつくる新しいかたち～」をテーマに体験型ゲーム「かわさきトレジャー」を企画、運営して高い評価を得た。



## スピードスケート部の活躍

専修大学スピードスケート部は、平成26年1月5日から9日に行われた「日本学生氷上競技選手権大会」において、スピード部門で総合優勝を果たした。

## 川崎市「スマートライフスタイル大賞」奨励賞を受賞

専修大学ネットワーク情報学部の田中・綿貫プロジェクトと綿貫研究室は、川崎市の「スマートライフスタイル大賞」奨励賞を受賞した。同プロジェクトは平成19年度から環境問題と省エネ・創エネに情報技術を適用する試みに取り組んでおり、学生の活動が「解説のわかりやすさ」「技術力」「継続性」の点で評価された。平成25年度と同プロジェクトでは、振動で発電する「圧電素子」を利用してトレーニング時の動作を発電に利用することや、生田キャンパスの建物上に太陽光パネルを設置した場合の費用対効果を検証。成果は、「川崎国際環境技術展2014」(平成26年2月14・15日、川崎市とどろきアリーナ)で発表を行った。

## ソチ冬季五輪でフリースタイルスキー・ハーフパイプ スキー部OG小野塚彩那選手が銅メダル獲得

ソチ五輪(開催日:平成26年2月7日から23日 開催地:ロシア・ソチ)から新種目となったフリースタイルスキー・ハーフパイプに出場したスキー部OGの小野塚彩那選手(平22商)が、見事銅メダルを獲得した。小野塚選手は在学中、全日本学生スキー選手権・アルペン大回転で優勝(4年次)全日本学生スキー技術選手権で3連覇(2年次から4年次)など輝かしい実績を残した。アルペンで磨いたスピード・技術と「誰にも負けない」自信を持つ高いジャンプが持ち味。ソチ五輪からこの種目が採用されることを契機に2011年4月に転向して、今回の快挙を達成した。

また、スピードスケート1000<sup>m</sup>、1500<sup>m</sup>の2種目にスピードスケート部の近藤太郎さん(経営学部1年次)が出場した。在学中にスピードスケート部から五輪に出場するのは、堀井学さん(平6商)、糸川敏彦さん(平9商)がそろって出場した94年リレハンメル大会(開催地:ノルウェー・リレハンメル)以来である。



## 【石巻専修大学】

### 「復興ボランティア学」がスタート

石巻専修大学は、平成25年4月16日に東日本大震災後の石巻で復興に力を尽くしたボランティア団体のリーダーを講師に招き「復興ボランティア学」を開講した。「復興ボランティア学」は、理工・経営学部の共通科目である「総合科目Ⅰ」(前期開講)の授業で、ボランティアの役割や活動について理解を広めるため、平成25年度は一般市民にも無料で開放。事前の申し込みもいらず、1回だけでも聴講できるため、毎回多くの市民が学生と共に講義を聞き入った。



### 東日本再生ユースチャレンジ・プログラムに経営学部山崎ゼミのプロジェクトが採択

石巻専修大学経営学部山崎泰央ゼミの「被災地の子どもと学生をつなぐ『にこにこプレーパーク』プロジェクト」が「住友商事東日本再生ユースチャレンジ・プログラムー活動・研究助成ー」の2013年度の助成対象に採択され、平成25年4月14日に贈呈式が行われた。

山崎ゼミでは、石巻専修大学周辺の仮設住宅の支援を行っており、これまでに収入支援や交通支援などを実施。平成24年からは大学の敷地を使った「にこにこプレーパーク」という子どもの遊び場づくりに取り組み、「クリスマス会」を開催するなど着実に歩みを進め、この実績が評価された。

### 人間学部開設及び理工学部改組記念式典を挙

石巻専修大学は、平成25年5月25日に、「人間学部開設及び理工学部改組記念式典」を挙



### 自動車技術独創アイデアコンテストで優秀賞受賞

平成25年6月15日に宮城県産業技術総合センターで行われた第23回「自動車技術独創アイデアコンテスト」(主催：公益社団法人自動車技術会東北支部学生自動車研究会)において、齋藤貴聡さん(理工学部機械工学科3年次)が優秀賞を受賞した。「自動車の遠隔操作」をテーマに、狭いスペースでも駐車が可能になる「スマートフォン」を使った遠隔操作のアイデアを発表し、審査員から高い評価を得た。

### 石原ゼミ開発 家庭用「サバだしラーメン」商品化

石巻専修大学経営学部石原慎士ゼミは、平成25年8月6日に石原ゼミで開発した「石巻・飯野川発サバだしラーメン」(家庭用商品版)の完成発表会・試食会を開催した。

地域産業の活性化や地域ブランド形成を研究する石原ゼミが、サバのだしやサバ節を使う地元の食文化に着目し、「サバだしラーメン」を考案。平成23年から石巻市の飯野川まちづくり研究会と連携して飯野川地区の食堂で提供を始めたところ好評だったことから、このたびの商品化となった。

家庭用商品版は、県内の小売店や関東地方の食品専門店を中心に販売されている。

### 第28回学生自動車研究会整備コンテストで1～3位独占

平成25年10月19日に開催された「第28回学生自動車研究会整備コンテスト」(自動車技術会東北支部主催)で、石巻専修大学理工学部機械工学科



自動車工学コース4年次生のチームが昨年に続き、1位から3位までを独占する好成績を収めた。

### 「東日本大震災 石巻専修大学 報告書 第3号」刊行

石巻専修大学は、平成26年3月に「東日本大震災 石巻専修大学 報告書 第3号」を刊行した。本書は、平成23・24年度に刊行した2つの報告書に続くもので、東日本大震災から3年目を迎える本学における教職員・学生の取り組みを紹介するとともに、震災の教訓を新たな災害への対策に活かすことを目的としている。





### III 事業の概要

学校法人専修大学は、21世紀ビジョン「社会知性(Socio-Intelligence)の開発」のもと、教育・研究体制の改革に取り組むとともに、「学生を基本に据えた大学づくり」を念頭に大学運営を行っている。

平成25年度は、「教育・研究力の強化」「競争力のある大学の創造」「学生支援の充実」「ブランド力の強化」「社会・地域貢献活動の充実」等7点を事業計画の重点事項に掲げ、教育の質向上に資する改革推進、修学環境や学生支援体制の充実強化を図った。

#### 主な事業の目的・計画及び進捗状況

##### 1 教育・研究力の強化

###### (1) 学士課程教育における教育課程の構築

【専修大学】

###### ① 専門教育と教養教育の有機的連携の実現

専修大学は、学士課程教育の質的向上を図るため、平成26年度入学者に新たな学士課程教育(新カリキュラム)を適用することを6月開催の学部長会・教授会で決定した。新カリキュラムは、「転換教育課程(専修大学入門科目)」「導入教育課程(専修大学基礎科目)」「教養教育課程(教養科目)」及び「専門教育課程(専門科目)」の4領域から成る三層で構成され、教育課程全体の体系性・順次性を確保し、かつカリキュラム編成上における教養教育と専門教育の有機的連携を実現するものとなる。学部長会・教授会承認後、平成26年4月からの導入に向け、授業展開数・担当、時間割の策定や各種調整を進めた。

###### ② 教育の質保証

専修大学は、教育の質保証の観点から、成績評価の厳格化を図るため、平成25年度前期の成績評価から単位認定される合格点を50点から60点に変更し、併せて成績評価区分も変更した。

現行成績評価基準 (平成24年度以前)		⇒	改定成績評価基準 (平成25年度以降)	
評点	評価		評点	評価
100~80	A	100~90	S	
79~60	B	89~85	A+	
59~50	C	84~80	A	
49~0	不合格	79~75	B+	
		74~70	B	
		69~65	C+	
		64~60	C	
		59~0	不合格	

###### ③ キャリア教育の体系化

専修大学は、全学共通の低年次キャリア教育カリキュラムの開発等について、平成25年度開講科目の状況を踏まえ、平成26年度から専修大学基礎科目に設置する「キャリア入門」の運営体制の整備を進めた。また、キャリア形成支援講座として新たに「専修大学リーダーシップ開発プロジェクト」を開講し本学学生に求められるリーダーシップ能力の育成に努めた。

【石巻専修大学】

###### ① 初年次教育の強化

石巻専修大学は、新入生の大学における学修や生活への早期適応、人間関係の構築、能動的な学修姿勢の定着にむけて、4月のオリエンテーション期間を利用した「オリエンテーション合宿セミナー」を実施した。

さらに、平成25年度に新設した人間学部を含めて全学的に1年次必修科目として「基礎ゼミナール(学科により名称は異なる)」を実施した。

また、初年次教育につながる入学前教育についても、平成25年度(平成26年度入学予定者対象)は、全学教務委員会が検討し、学部間の調整を図った後、共通プログラムとして、平成25年12月上旬に推薦入学等の入学手続者に課題を送付した。

###### ② 教育の質保証に向けた取り組み

石巻専修大学は、学部教育の質保証に資する厳格な成績評価を徹底するため、GPA制度を平成24年度の試行を経て、平成25年度から導入した。

また、学生には教務ガイダンスや基礎ゼミナールでの説明を通じてGPA評価への理解促進を図った。

##### (2) 大学院教育の質の保証・向上

【専修大学】

大学院は、「第2次大学院教育振興施策要項」(平成23年8月5日文部科学大臣決定)を指針として、平成25年度は、人材養成目的に沿った体系的な学びを示す履修モデルの作成を行った。

また、博士論文の学術機関リポジトリによる公開等の改革を推進した。

### (3) 法科大学院教育の質保証

#### 【専修大学】

#### ① 入学者の質と多様性の確保

法科大学院は、教育の質の向上のための改善策として、平成25年度は入学者の質と多様性を確保するため、スカラシップ入学試験を新設した。

#### ② 修了者の質保証

法科大学院は、修了者の質を保証するための一つとして、客観性のあるテスト(全国学力進捗確認短答テスト)の実施や、アカデミックアドバイザー制度の見直しを行い、学生の基礎学力の向上を図った。

#### ③ 大学評価・学位授与機構による「法科大学院認証評価」後の対応

法科大学院は、平成24年度に実施された独立行政法科大学院評価・学位授与機構による法科大学院認証評価結果を受け、指摘事項についての学則改定及び入学予定者を対象にした導入授業の改正を実施した。

平成25年 司法試験合格者数等 (人)

出願者数	受験者数	短答式試験の合格に必要な成績を得た者	最終合格者数
150	99	55	9

### (4) 研究拠点等の創出・強化

#### 【専修大学】

社会知性開発研究センターは、「社会知性の開発」を達成するために、国際社会に対応し得る学術・文化の幅広い分野における専門的、学際的な総合研究・教育活動を推進している。本センターの平成25年度の研究拠点は、文部科学省「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に選定された研究プロジェクトをはじめとする次の5拠点である。

#### ◆ 社会関係資本研究拠点

「持続的発展に向けての社会関係資本の多様な構築：東アジアのコミュニティ、セキュリティ、市民文化の観点から」

#### ◆ 心理科学研究拠点

「融合的心理科学の創成：心の連続性を探る」

#### ◆ 日中企業連携研究拠点

「中国における日系および現地系中小企業の発展動向と連携可能性の調査」

#### ◆ 国際経営研究拠点

「メコン地域五カ国域内における現地中小企業の貿易活動の調査」

#### ◆ 東アジア世界史研究拠点

「古代東ユーラシアと来日『外国人』」

#### 【石巻専修大学】

共創研究センターは、大学と地域自治体や企業とが“共に創る”をキーワードに緊密に連携し、地域課題解決のために研究プロジェクトの企画、調査・研究を推進している。

平成25年度の「プロジェクト事業(研究プロジェクト・社会還元事業)」は、継続分を含め12事業である。

平成25年度 共創研究センター「プロジェクト事業」研究プロジェクト

研究課題	研究期間
東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究	H25. 5. 31 ～ H26. 3. 31
復興ボランティア学の構築に関する研究	
石巻市の地域性を生かした産学・異業種連携による商品開発手法に関する研究	
石巻地域における震災からの企業再生実態調査－電子書籍による次世代への提言－	
GPSと遺伝子集団解析法を利用したニホンジカ駆除法の確立	
石巻港の客船歓迎行事を通じた体験型観光プログラム開発	
いしのまきワンセグによるコンテンツの制作と地域間交流	H25. 10. 28 ～ H26. 3. 31
塩と海をキーワードにした石巻圏の活性化を目指した資源発掘	
海水中の放射性セシウムの固相濃縮法による前処理法の検討	
酸化ガリウムを用いた深紫外光センサの開発	

社会還元事業

研究課題	研究期間
エンジョイ・スーパーサイエンス	H25. 5. 31 ～
ISU健康支援プログラムの石巻地域への展開	H26. 3. 31

### (5) 学外研究費の獲得

#### 【専修大学】

専修大学は、科学研究費助成事業の応募・採択件数の拡大に向け、募集説明会の開催のほか、採択実績のある教員等による相談会を実施するなど支援を強化した。平成25年度における科学研究費助成事業の交付決定数は80件(平成24年度は73件)であった。

## (6)若手研究者の育成

### 【専修大学】

専修大学は、若手研究者の育成を図り、あわせて本学の教育研究を一層活性化させるために、博士の学位を有する者を、平成25年度から助教として2名(経済学部1名、法学部1名)採用した。

助教は、学生を教授・指導するとともに、自らの専門領域及び授業科目に係る研究に従事する。

## (7)新たな教員制度の導入

### 【専修大学】

専修大学は、多様な知識や経験を有する人材を学外から確保し、実社会における経験を活かした実践的な教育研究や、最先端の技術開発現場等の情報を取り入れた教育研究を通じて学術交流を促進するため、「特任教員」及び「客員教員」の制度を導入した。平成25年度は、制度運用に係る条件・環境を整備し、採用手続を進め、平成26年度から、「特任教員」4名、「客員教員」1名を採用することとした。

## (8)平成25年度大学評価(認証評価)への申請

### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、公益財団法人大学基準協会へ平成25年度大学評価を申請した。

平成25年10月に行われた実地調査等を経て、平成26年3月11日に大学基準協会の大学基準に適合していることが認定された。認定期間は、2014(平成26)年4月1日から2021(平成33)年3月31日までである。

また、平成25年度は、本申請とは別に、本学の自己点検・評価活動の取り組みに客観性・公平性を確保する仕組みとして、学外の有識者による外部評価委員会を初めて実施した。

## 2 競争力のある大学の創造

### (1)教育組織の改革

#### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、地域の「文化・教育」の発展に寄与する人材を育成するべく、平成25年度に人間学部(人間文化学科、人間教育学科)の新設と理工学部の基礎理学科及び生物生産工学科を改組し、「食環境学科」及び「生物科学科」を新たに設置した。今後4年間は、申請計画の履行状況を大学設置審議会に報告するため、着実に計画を実施することとしている。

## (2)競争優位性を盤石にするキャンパス整備

### 【専修大学】

#### ①神田5号館の完成

専修大学は、神田キャンパスの学生の学習環境を整備・拡充するため、教室と学習支援機能を主とした神田5号館の建設を行い、平成26年3月に完成させた。

新たな5号館は地上7階建てで、高層階(4~7階)には、最新設備を備えた5教室、また低層階(1~3階)には、学生が交流するラウンジ、情報端末を配置したラウンジ、自習・ディスカッションルームを配した学習スペースなどがそろっている。

授業機能に加え、「考える・まとめる・情報を獲得する・交流する・表現する」といった、学生のアクティブ・ラーニングを促進するための学習支援機能が形成された校舎となっている。



#### ②専修大学国際交流会館(仮称)の建設

専修大学は、グローバルな人材を育成する教育寮としての機能を持つ新たな国際交流の拠点「専修大学国際交流会館(Senshu International House)」(仮称)の建設を進めている。同会館の利用開始は、平成26年6月を予定している。

#### ③生田新体育寮・新体育館(仮称)の建設

専修大学は、生田第1体育寮(昭和39年竣工)及び生田第2体育館(昭和46年竣工)に代わる新たなスポーツ施設の建設に向けて、総合体育館隣接地において、生田新体育寮・新体育館(仮称)の新築工事に着手した。

#### ④生田キャンパスの整備に伴う諸工事の実施

専修大学は、生田3号館跡地を活用する再開発計画について、専修大学キャンパス構想検討会議で審議し、基本構想を策定した。

同会議の基本構想は、3号館跡地に大学院・研究室を中心とした高層棟校舎、2号館を解体し跡地に学生のアクティブ・ラーニング空間を中心とする低層棟校舎を建設するものである。本構想に基づき、平成25年11月より生田2号館の解体工事を開始した(平成26年5月完了予定)。

また、新校舎の具体的な設計業務にも着手した。

### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、学生の通学環境及び修学環境の改善について検討を進め、結果、キャンパス内に4階建て150部屋規模の石巻専修大学学生寮(ユニバーシティハウス(仮称))を建設することとなった。東日本大震災以降、一層進んでいる石巻地域の住居費高騰及びアパート、マンション等の不足に対処するため、平成27年3月の完成を予定している。

### (3) 学生募集力の強化

#### 【専修大学】

##### ① 入試情報サイトのリニューアル

専修大学は、平成25年4月1日に、情報更新の即時性を確保するため、入試情報サイトを、コンテンツマネジメントシステム(CMS)の機能を有する専修大学公式サイト内にリニューアルさせた。このリニューアルで、テキスト情報の更新回数は52回(前年度:37回)となり、アクセス数は、3,964,501ページビュー(前年度:1,695,355ページビュー)となった。

※ページビューは、Webサイトのアクセス数の単位の一つで、Webサイトの訪問者のブラウザに、HTML文書(Webページ)が1ページ表示されるのが1ページビューとなる。

##### ② 学生募集活動の強化

専修大学は、志願者・保護者及び高校教員の本学に対する理解促進、関心喚起を図るため、「オープンキャンパス」「体験授業フェア」「ペアレンツフェア」などの直接広報活動に注力している。平成25年度は、拡張現実の技術を使ったスマートフォンアプリを利用して大学紹介を行うなど、新たな広報媒体も取り入れながら、本学の魅力・特徴を効果的に発信した。

#### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、資料請求者及びオープンキャンパス参加者の拡大に向け、①重点地域の高校生及びその保護者などに対する有益な情報提供や②メールマガジンの掲載内容・配信時期等についても改善を進めた。資料請求者やイベントなどによる接触者(実人数)は、7,025名となり前年度比で16%の増加となった。

### 3 学生支援の充実

#### (1) 東日本大震災に係る支援

##### 【専修大学・石巻専修大学】

専修大学及び石巻専修大学は、東日本大震災により甚大な被害に遭われた在学生・新入生に対し、平成23年度から修学支援を目的とした学費減免特別措置(2年間継続)を講じている。平成25年度は、家屋が被災された平成24年度入学者に対して、平成24年度に続き平成25年度も学費減免を行った。対象学生は、専修大学98名、石巻専修大学116名となった。

また、家計が急変された平成25年度入学者(石巻専修大学のみ)に対して、平成25年度の学費減免を決定したが、新規採用件数は0件であった。

被災者支援に係る学費減免特別措置状況

年度	大学	支給総額(円)
平成25年度	専修大学	22,400,000
	石巻専修大学	34,736,000
	計	57,136,000

##### 【専修大学】

専修大学は、学生の社会性及び自主性を涵養するため、平成24年度に「専修大学ボランティア推進委員会」を設置した。平成25年度には、同推進委員会による活性化が図られ、ボランティア活動による社会貢献はもとより、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進した。

平成25年度開催の「災害救援ボランティア講座」は前期・後期の合計で75名が参加し、72名に上級救命技能認定証及びセーフティーリーダー認定証が交付された。

また、「夏期復興支援ボランティア活動」においても、同推進委員会を代表して学生部長、学生部次長が学生40名を引率した。

#### (2) 修学環境の整備

##### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、東日本大震災の影響によりJR仙石線の一部不通が続いているため、震災以降、段階的に通学支援バスの利便性向上を図っている。平成25年度は、利用状況を勘案し一部路線で増便を行った。



### (3)国際化の進展

#### 【専修大学】

#### ①王立プノンペン大学(カンボジア)と「国際交流協定」を締結

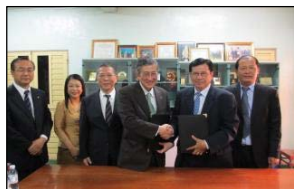
専修大学は、平成25年4月29日に、王立プノンペン大学(カンボジア・プノンペン市)と国際交流協定を締結した。

カンボジアの大学とは初めての締結で、今後両大学の教員・研究者や学生との間で活発な交流が期待

される。本学の協定校は17カ国・地域21大学となった。

同大学は、カンボジアで創設された最初の高等教育機関。社会科学人文学部、理工学部、外国語研究所、および大学院修士課程などがある。

※国際交流協定校については、37頁を参照。



#### ②「専修大学東南アジア特別聴講生受入れ支援制度」の創設

専修大学は、東南アジア諸国、特に経済発展途上にあるベトナム、ラオス、カンボジアからの留学生受入れ促進のため、「専修大学東南アジア特別聴講生受入れ支援制度」を平成25年度から5年間の期間限定措置として創設した。支援対象大学は、ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学(ベトナム)、ラオス国立大学(ラオス)、王立プノンペン大学(カンボジア)とし、平成25年度はラオス国立大学の留学生1名を対象とした。

#### ③Language Skills Program(LSP：留学支援講座)の充実

専修大学は、海外留学を希望する学生を増加させるため、Language Skills Program(LSP：留学支援講座)の充実を図った。平成25年度は新講座として「グローバル人材育成講座“最新ニュースで実践英会話”」を開設するとともに、英語インストラクターによるオフィスアワーの実施、TOEFL ITP®テストの取得スコア履歴情報の返却等、学生サポート体制の強化を図った。これらにより、平成25年度に実施した英語のLSPの受講者は455名となり、前年度に比べ35名増加した。

#### ④専修大学国際交流会館(仮称)運用に向けた準備

専修大学は、平成26年6月に運用を開始する「専修大学国際交流会館」(仮称)での新規プログラムの開発を進めた。同会館をグローバル人材を育成する教育寮として機能させるため、約1週間の英語合宿を行う「English Camp」やレジデント・パートナーとして同会館に滞在し、留学生の日常生活のサポートをする寮内留学プログラムを平成26年9月から開設する予定である。

### (4)資格試験等の合格者拡大

#### 【専修大学】

専修大学は、各種難関試験の合格者拡大に向けて次のとおり各課外講座の再編を行った。

#### ◆法律総合講座(神田開講)

憲民刑入門講座のカリキュラム構成の効率化と確認テストの内容変更。

#### ◆公務員試験講座(神田・生田開講)

入門講座では、カリキュラムを再編し、選抜生制度を導入。さらに、実力完成講座の国家公務員総合職選抜生コースを学内特別講義に変更。

#### ◆会計士講座(生田開講)

入門講座のカリキュラム変更。

さらに、以下の短期集中指導を新たに実施した。

#### ◆法律総合講座合宿指導

入門講座生と基礎講座生の合同合宿を実施。

#### ◆会計士講座夏特訓指導

夏期強化合宿指導を、特訓形式にリニューアル。

#### ◆公務員試験講座夏期合宿指導

数的処理を始めとする公務員試験の最重要科目の基本を習得するための講座を実施。

<参考>

平成25年度各種試験合格状況(卒業生を含む)

◆国家公務員採用総合職試験 1名(0名)

◆国家公務員採用一般職試験 26名(12名)

◆公認会計士試験 12名(6名)

◆教員採用試験 19名(6名)

※( )内は、在学生で内数である。

#### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、税理士等会計専門職講座の受講生及び合格者を増やすため、「日商簿記試験対策講座」の分析・検証を実施し、受講生の利便性を考慮した改善を実施した。



## 4 ブランド力の強化

### (1) 積極的な知の発信

#### 【専修大学】

#### ①「阪谷芳郎関係書簡集」の刊行

専修大学図書館は、本学第2代学長・初代総長であり、大蔵大臣・東京市長も務めた阪谷芳郎が残した書簡類を整理、翻刻した専修大学編『阪谷芳郎関係書簡集』（芙蓉書房出版、税抜き11,500円）を平成25年11月に刊行した。図書館に所蔵している1,365点の書簡類を収めており、差出人は渋沢栄一、福沢諭吉、添田寿一など420名以上である。

#### ②四大学共催展の開催

専修大学は、本学と同時期に開校し、神田にゆかりの深い中央大学、日本大学、明治大学の4大学で平成26年1月24日から2月28日まで、企画展「近代日本の幕開けと私立法律学校－神田学生街と法典論争－」を、明治大学博物館特別展示室で開催した。

本企画展は、明治期に4大学があった神田という地区にスポットをあて、さまざまな資料から学生生活の一端を紹介するほか、民法・商法の施行をめぐる繰り広げられた法典論争に当時の法律学校の講師や生徒がどのように関わっていたのかを紹介する企画であり、展示会中の来場者は、2,532名であった。



#### ③社会知性フォーラムの開催

専修大学は、平成25年7月21日に、「社会知性フォーラム」を松戸市民会館（千葉県松戸市）において開催した。このフォーラムは、「社会知性の開発」に基づく知の発信の場として、平成22年度から開催しており、4回



目となる今回は、松戸市制施行70周年を記念し、田中禎昭さん（墨田区すみだ郷土文化資料館専門員（昭61文））、湯浅治久文学部教授及び山田順子さん（時代考証家（昭51文））がそれぞれ「古代葛飾と八世紀の環境クライシス」、「『まつど』から広がる中世政界－中世の国衙文化圏と寺院－」、「幕末のお江戸を時代考証－江戸の食生活を支えていた松戸－」をテーマに講演し、古代・中世・近代における松戸を語った。参加者は、571名。

#### ④「専修大学史資料集」の刊行

専修大学は、創立150年に向けて編纂する「専修大学史資料集」の第1回配布本として「五大法律学校の時代」を刊行した。本資料集は、専修大学の歴史を、日本近現代の歴史の中に位置付けることを刊行の一つの目的としている。今後、「学徒出陣」や「大学昇格」等のテーマの他、専修人の人間像も取り上げる予定で、2029年（創立150年）には、全10巻の資料集を揃える。

#### ⑤大学院公開講座

大学院は、平成25年10月4日から25日及び11月8日から29日の毎週金曜日に平成25年度大学院公開講座を神田校舎7号館で開催した。平成25年度はテーマをPART1「自民党復権の背景と課題」、PART2「憲法改正の動向と問題点」に分けそれぞれ4回、計8回開講した。参加者は、延べ404名。

#### ⑥公開講座、連携講座の充実

エクステンションセンターは、知的資源の解放に重点を置き、公開講座と連携講座の充実を図った。平成25年度に実施した有料の公開講座は9講座で受講者は64名、無料の講座は1講座で受講者は延べ1,314名、地方自治体との連携講座は5講座で受講者615名となった。

※公開講座情報については、32頁参照

#### ⑦教育職員免許状更新講習の実施

専修大学は、教職課程を有し、多数の教員を輩出していることから、本学の社会的責任を果たすために、教育職員免許状更新講習を継続実施した。平成25年度は、必修講習を7月29・30日、選択講習を7月31日・8月1・2日に生田キャンパスで実施した。受講者は、必修講習30名、選択講習192名であった。

#### 【石巻専修大学】

石巻専修大学開放センターは、地域・社会貢献の一環として市民が新しい知識に触れる機会を提供するため、小学生から一般市民を対象とした「青少年のための科学の祭典2013」（平成25年8月11日開催、参加者：933名）などを実施したほか、産業フェアへの出展を行った。

また、みやぎ県民大学「石巻専修大学開放講座」を平成25年6月6日から7月25日に開催した。受講者は119名。

## (2) 広報活動の強化

### 【専修大学】

#### ①公式ツイッターの開設

専修大学は、平成25年6月1日に、教育・研究等の情報発信機会の拡大による認知度の向上、本学に関心を持つユーザーとの繋がりを堅持することによる本学のブランド力の向上、さらには災害時・緊急時における情報発信の継続的实施を主な目的に、公式ツイッターを開設した。

#### ②サインボードのリニューアル

専修大学は、平成25年4月に、本学の更なる知名度及びブランド力の向上を目的に、全国の主要駅に掲出しているサインボードの意匠(デザイン)を変更した。サインボードの設置箇所は、全国16箇所である。



### 【専修大学・石巻専修大学】

専修大学及び石巻専修大学は、東北地方におけるブランドイメージの向上と学生募集力の強化を図るため、テレビCMを制作し放送した。このテレビCMは、平成25年12月3日から28日の期間に仙台放送の「めざましテレビ」(火曜日放送回)と「スーパーニュース」(土曜日放送回)に、仙台放送番組ローカル提供広告として当該番組提供時間内に専修大学のCM(15秒)と石巻専修大学のCM(15秒)が一体となったCM(30秒)を放送した。

### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、広報委員会を中心として、全教職員の協力により本学の特色ある「教育」や「研究」、「地域・社会貢献」等の活動をマスメディアやホームページを介して積極的に発信した。

さらに、平成26年3月24日に石巻専修大学の公式ウェブサイトのリニューアルを実施した。今回のリニューアルで、専修大学と同じコンテンツマネジメントシステム(CMS)で管理されることになり、利便性が大幅に向上される。

## (3) スポーツに強い大学づくり

### 【専修大学】

専修大学は、カレッジスポーツの振興に向け、スポーツに秀でた学生を受け入れ、競技力向上への支援を行うとともに、学業支援にも努めている。

平成25年度は、競技力向上に関する学生ニーズの把握や競技指導体制、練習体制及び生活指導等の改善・強化を図った。

## (4) 就職に強い大学づくり

### 【専修大学】

専修大学は、学生の就職に対する意識を醸成するため、「文章力養成講座」(平成25年4月から5月の期間に10回実施、参加者216名)、「業界研究の方法」(平成25年6月に6回実施、参加者延べ152名)などの支援講座(3年次生対象)を平成25年度前期から開始した。

平成25年度は、景気の回復傾向を受け、内定率が上昇し、就職環境は改善しつつあるが、企業の厳選採用の姿勢は変わらず、就職活動を行う学生にとって決して楽観視できない状況にあった。そのため、10月に第3回就職ガイダンスを実施するなど4年次生以上への支援体制の充実を図るとともに、3年次生には夏期休暇中に新規プログラムを6週間にわたり実施するなど、就職活動に乗り遅れることのないように早期から支援プログラムを実施した。

※卒業生の進路については、31頁参照

### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、平成25年度も前年度に引き続きキャリアカウンセラーの配置及びハローワーク石巻、みやぎジョブカフェの協力による就職相談コーナーの学内開設など、就職支援の強化を図った。

また、宮城県中小企業家同友会及び宮城県中小企業団体中央会と連携し、県内の中小企業への理解を深めてもらう機会と両団体が主催する合同企業説明会等への参加促進を図った。

※卒業生の進路については、31頁参照

## 5 社会・地域貢献活動の充実

### (1)復興・再生への寄与

#### 【専修大学】

専修大学図書館は、復興支援事業の一環として、被災者の方々へ図書を無料頒布するため、本学の教職員及び学生から寄贈された図書1,257冊を石巻専修大学図書館に送付した。平成23年度からの送付累計冊数は15,260冊となり、今回で同プロジェクトは完了した。

#### 【石巻専修大学】

石巻専修大学は、平成23年4月に「復興共生プロジェクト」を立ち上げ、東北沿岸域の核となる大学として、地元自治体、企業、地域と連携し、復興に取り組んでいる。平成25年度においても、石巻地域の産業復興プロジェクト、経営学部地域活性化研究会を中心とした地域貢献活動・復興支援活動等に取り組んだ。成果物の社会等への還元も一部進められており、なかでも東日本大震災により被災した石巻市門脇町・南浜町周辺の復元立体模型(3Dプリンタ活用による石巻市沿岸部の復元立体模型の製作プロジェクト)の展示は、学内外で行われ大きな反響を起こした。



平成25年度 模型展示場所

期 間	会 場
4月 1日～ 5月31日	石巻専修大学図書館
6月 3日～ 6月28日	石巻信用金庫開北支店
7月 1日～	石巻専修大学図書館

### (2)地域への貢献

#### 【専修大学】

##### ①第8回専修大学カップの開催

専修大学は、地域(神奈川県)の子ども達の健全育成支援を目的として、平成18年から神奈川県野球連盟との共催により、「専修大学カップ 神奈川県学童軟式野球選手権大会」を開催している。



平成25年度は、8月1日に横浜スタジアムで開会式を開催。県内54チームが、8月3・4・5・12日の4日間、トーナメント方式で熱戦を繰り広げ、坂本少年野球部(横浜市保土ヶ谷区代表)が初優勝を果たした。

##### ②KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミーの開講

大学院経済学研究科は、平成20年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に選定され、5期に亘って展開した「KS(川崎・専修)コミュニティ・ビジネス・アカデミー」の実績を土台に、平成23年度から「KS(川崎・専修)ソーシャル・ビジネス・アカデミー」を開講している。平成25年度は、第3期生として、正規受講生23名及び部分履修生1名に対してプログラムを展開し、23名が修了した。

##### ③クリーンタウン活動の実施

専修大学は、地域貢献活動の一環として、平成22年度から取り組んでいる清掃活動「Clean town 2013 in KANDA」を、平成25年7月6日に実施した。「最寄り3駅(水道橋駅、神保町駅、九段下駅)から神田キャンパスまでの通学路」について、学生、教職員及び地域住民など160名が、清掃に取り組んだ。さらに、同日生田キャンパスでも体育会学生による清掃活動「CLEAN TOWN 2013」を多摩区役所、多摩区・3大学連携協議会、NPO法人多摩川エコミュージアムの協力の下実施した。多摩川の河川敷及び向ヶ丘遊園駅までの通学路について、一般参加者を含む451名が、清掃に取り組んだ。





#### ④多摩区・3大学連携事業の推進

専修大学は、平成17年12月に川崎市多摩区及び区内2大学(明治大学・日本女子大学)と「多摩区・3大学連携協議会」を設立し、地域社会との連携強化に努めている。平成25年度は、「2013多摩区3大学コンサート」(多摩市民館)を平成25年10月5日に開催した。



また、平成25年10月19日に行われた「第36回多摩区民祭」(生田緑地)において、開会式や開会パレードに本学学生サークルが参加し、イベントを活気付けるなどの協力を行った。

さらに、川崎市多摩区と日本女子大学が取り組んでいる「学校教育ボランティアによる学校サポート事業」へも、本学学生が13名参加した。

#### 【石巻専修大学】

##### ①産学官連携の推進

石巻専修大学は、地域活性化と産業の振興のために産業基盤となる研究開発、技術相談、経営相談等を産学連携事業として行っている。平成25年度は、石巻信用金庫とのISプロジェクトや石巻地域産学官グループ交流会・自動車関連産業集積部会(IMプロジェクト)、学都仙台コンソーシアムとの「復興大学(地域復興支援ワンストップサービスプラットフォーム)」などの活動に取り組んだ。ISプロジェクトでは、「産学金連携コーディネーター認定研修(平成25年9月20日、10月9日、11月21日の3日間、22名受講)」を実施した。

また、石巻市の地域連携事業助成金に基づく研究プロジェクトや(財)石巻地域高等教育事業団のIK地域研究員制度により、地域の課題解決や石巻地域の文化・学術の振興に資する学術研究の推進を図った。

##### ②「いしのまきワンセグ」の推進

石巻専修大学は、平成24年度にエリア放送を行う地上一般放送局の免許を取得し、東北初となる地上一般放送局「いしのまきワンセグ」を開局した。平成25年度は、教育への活用のみならず地域の防災や活性化も視野に入れて、コンテンツの充実を図った。平成25年度の放送回数は51回で、三枝成彰氏、中村雅俊氏などの著名人も多数ゲスト出演した。平成26年3月7日からは仙台のコミュニティFMでも同時放送がスタートした。

## 6 経営基盤の強化

### (1)健全財政の確保

#### 【学校法人専修大学】

学校法人専修大学は、平成25年度予算を、教育・研究の質的向上に資する施策に重点を置いて編成し、実行した。期中における予算の補正(修正)についても対象を限定するとともに収入・支出とも堅実な計画(根拠)に基づいた補正(修正)を実行した。

また、財政基盤の強化に向け、経常経費については、節減体制を継続実施した。

### (2)寄付金の募集

#### 【学校法人専修大学】

学校法人専修大学は、平成25年4月から2年計画で教育研究振興協力資金の募集を展開し、募金活動を推進した。

#### ◆募金目的

- ①専修大学神田・生田校舎教育施設設備の整備拡充
- ②石巻専修大学学生の教育支援
- ③教育研究の充実
- ④奨学金制度の充実
- ⑤学生スポーツ活動の振興など

#### ◆募金応募状況

(平成25年4月1日から平成26年3月31日)

一般寄付金・特別寄付金		件数	金額(円)
一般寄付金	専修大学	94	9,120,000
	石巻専修大学	15	1,610,000
	合計	109	10,730,000
特別寄付金	法人・団体	92	45,037,174
	個人	1,107	46,018,650
	合計	1,199	91,055,824
総	合計	1,308	101,785,824

### (3)情報通信環境の充実

#### 【学校法人専修大学】

学校法人専修大学は、事務用コンピュータシステムを、平成25年9月2日に本稼働させた。新システムは、専修大学と石巻専修大学の事務用システムの統合とともに、システム運用管理の全面的な統合を図り、法人内での事務用システムの利用環境の統一による業務の効率化、並びにシステム資源及び人的資源の集約・統合による運用管理コストの削減を図るとともに、契約期間を6年契約(旧システムは5年契約)とし、年間経費の削減を実現した。

【専修大学】

専修大学は、平成26年4月稼働予定の次期教育・研究用コンピュータシステムを平成26年度学事暦に合わせて3月28日から仮稼働させた。本稼働は、4月1日。

新システムは、優れた安定稼働とグリーンITの推進が実現できるほか、CALL(Computer Assisted Language Learning)教室システムの統合や、平成26年4月より利用を開始する神田5号館の情報処理教育環境にも配置され、大学全体での教育・研究用コンピュータシステムの運用管理の効率化が実現できる。

7 専修大学北海道短期大学に係る対応

【学校法人専修大学】

①備品及び図書等の処理

学校法人専修大学は、平成25年1月に短期大学閉鎖業務プロジェクトを常勤役員会の下に設置し、特に備品及び図書等の処理(譲渡等)についての基本的方針を取りまとめた。この基本的方針に基づき、北海道美唄事務所が窓口となり、各方面からの要望等を整理し、譲渡等の処理を進めた。

譲渡・移管した物品は、次の表のとおり。

また、短期大学閉鎖業務プロジェクトは、平成25年7月をもって解散したが、短期大学の土地・建物の取り扱いについて検討する短期大学廃止業務プロジェクトの設置が平成25年10月23日の理事会で決定され、検討が進められている。

譲渡・移管をした備品・図書(平成26年3月31日現在)

備品・図書	譲渡・移管先	数量(点・冊)
備品	専修大学及び石巻専修大学	118
	美唄市及び市関連諸団体	2,527
	短期大学と関係の深い教育研究機関・企業・団体及び個人	1,077
	計	3,722
図書	専修大学及び石巻専修大学	1,105
	美唄市及び市関連諸団体	7
	短期大学と関係の深い教育研究機関・企業・団体及び個人	5,129
	計	6,241
備品・図書合計		9,963

②閉学式・閉学レセプションの実施

学校法人専修大学は、平成25年2月23日の専修大学北海道短期大学の卒業式をもって学生が全員卒業したことから、平成25年6月8日に専修大学北海道短期大学の閉学式を同短期大学体育館で挙行し、昭和43年4月1日開学以来、45年間の歴史に幕を閉じた。閉学式には、理事長をはじめ法人・大学・



短期大学関係者、美唄市長や地域の関係者及び卒業生約480名が参加した。この45年間で送り出した卒業生数は12,068人、専攻科修了生は132人となる。

その後、会場を美唄ホテルスエヒロに移し閉学レセプションを実施した。

専修大学北海道短期大学 45年のあゆみ

年度	主な年譜
1968(昭43)	専修大学美唄農工短期大学として開学 農業機械科、農業土木科、農業経営科の3学科編成
1973(昭48)	校名を専修大学北海道短期大学に改称 土木科、商科、農業機械科に改組
1976(昭51)	専攻科(土木専攻、農業機械専攻)設置
1977(昭52)	開学10年記念式典挙行
1980(昭55)	第1回中国人留学生受け入れ
1983(昭58)	造園林学科、経済科の2学科を増設し5学科体制
1987(昭62)	創立20年記念式典挙行
1992(平4)	専攻科(造園林学専攻)設置
1998(平10)	創立30周年記念式典挙行
2002(平14)	黒竜江農業職業技術学院との交流覚書の調印式
2003(平15)	学科名称変更 土木科→環境システム科 農業機械科→農業科学科 造園林学科→園芸緑地科
	学科改組 環境システム科・農業科学科・園芸緑地科 →みどりの総合科学科 商科・経済科→商経社会総合学科
2011(平23)	学生募集停止 みどりの総合科学科・商経社会総合学科、 専攻科
	第44回卒業式を挙行
2012(平24)	第44回卒業式を挙行
2013(平25)	閉学式・閉学レセプション挙行





## IV 決算の概要

### 1 資金収支計算書

〔概要〕

収入の部では、当年度収入合計が予算比0.29%増の246億3,680万円(前年度比では12.19%の減)となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では、予算比0.22%増の332億5,552万円となっている(前年度比では11.36%の減)。

支出の部では、当年度支出合計が予算比1.14%減の264億7,413万円(前年度比では8.39%の減)で、次年度繰越支払資金は、翌年度の収入となる前受金収入を含み67億8,138万円となっている(前年度比では21.32%の減)。

資金収支計算書(概要) 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位:千円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	19,592,052	19,615,177	△ 23,125
手数料収入	968,804	1,030,944	△ 62,140
寄付金収入	100,460	101,785	△ 1,325
補助金収入	1,911,699	1,659,900	251,798
資産運用収入	363,333	394,354	△ 31,021
資産売却収入	486,619	486,866	△ 247
事業収入	525,089	504,142	20,946
雑収入	869,653	873,810	△ 4,157
前受金収入	4,011,988	4,276,967	△ 264,979
その他の収入	725,250	846,837	△ 121,587
資金収入調整勘定	△ 4,990,537	△ 5,153,976	163,439
当年度収入合計	24,564,410	24,636,809	△ 72,399
前年度繰越支払資金	8,618,711	8,618,711	
収入の部合計	33,183,121	33,255,521	△ 72,399

3月末日在籍者数は20,448人

入学検定料収入や証明手数料収入など

教育研究振興協力資金

国庫補助金収入(経常費補助金など)と  
地方公共団体補助金収入(結核予防費補助金  
など)

寮・セミナーハウスの利用料等を含む

平成26年度入学生の  
入学手続き時の納入学費

本年度末における未収入金や  
前年度(平成24年度)の前受金

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	14,741,321	14,726,114	15,206
教育研究経費支出	5,458,978	5,426,704	32,273
管理経費支出	1,622,831	1,639,150	△ 16,319
借入金等利息支出	13,857	13,856	0
借入金等返済支出	743,320	743,320	0
施設関係支出	3,017,002	3,028,485	△ 11,483
設備関係支出	740,646	757,414	△ 16,768
資産運用支出	578,000	378,042	199,957
その他の支出	1,374,021	1,390,719	△ 16,698
[予備費]	(0)		150,000
資金支出調整勘定	△ 1,661,887	△ 1,629,668	△ 32,218
当年度支出合計	26,778,089	26,474,139	303,949
次年度繰越支払資金	6,405,032	6,781,382	△ 376,349
支出の部合計	33,183,121	33,255,521	△ 72,399

教育・研究の活動に要する経費  
・被災学生に対する学費減免奨学金を含む

法人業務・学生募集等に要する経費  
・東日本大震災で被災した志願者に対する  
入学検定料免除額(480万円)を含む

借入金の残高は12億6,609万円

このうち前払金支払支出では、主として  
洋雑誌購入予納金として約1億1,619万円

本年度末における未払金や前年度(平成24年  
度)の前払金

※千円単位で表記するにあたり、千円未満を切り捨てているため、合計等において差異が生じる場合がある。

〔 内 容 〕

(1)収入の部

- ①学生生徒等納付金収入は、予算比0.12%増の196億1,517万円(前年度比では0.71%の増)。最終在籍者数が専修大学で19,153人、石巻専修大学で1,295人となり、全体では20,448人。最終在籍者数は、前年度と比べ、全体で432人の減となっている。
- ②手数料収入は、予算比6.41%増の10億3,094万円(前年度比では2.92%の減)。このうち、入学検定料収入は、予算比6.35%増の9億9,501万円(前年度比では2.79%の減)。入学志願者数が予算と比べ専修大学で2,213人、石巻専修大学で282名の増となっている。
- ③寄付金収入は、予算比1.32%増の1億178万円(前年度比では33.78%の減)。差異は、一般寄付金収入(平成25年度新入生の父母等による教育研究振興協力資金)の増による。
- ④補助金収入は、予算比13.17%減の16億5,990万円(前年度比では20.33%の減)。このうち、国庫補助金収入は、予算比13.26%減の16億4,649万円(前年度比では20.50%の減)。内訳は、経常費補助金が14億5,671万円(前年度比では21.69%の減)、研究設備補助金が796万円、教育研究装置補助金が1億2,524万円、施設高度化利子助成金が62万円、大学改革推進等補助金が5,594万円となっている。
- ⑤資産運用収入は、予算比8.54%増の3億9,435万円(前年度比では56.32%の増)。このうち、受取利息・配当金収入は、予算比12.54%増の3億3,857万円(前年度比では94.82%の増)。
- ⑥資産売却収入は、固定資産売却収入で、川崎市道路拡幅事業計画に基づく生田校地の有償提供と車両の売却による。
- ⑦事業収入は、予算比3.99%減の5億414万円(前年度比では0.50%の増)。差異は、留学プログラム事前研修受講者の減、伊勢原セミナーハウス他利用者の減、石巻専修大学における受託研究費使用額の減等による。
- ⑧雑収入は、予算比0.48%増の8億7,381万円(前年度比では16.82%の増)。差異は、専修大学における科学研究費補助金の間接経費の増等による。

⑨前受金収入は、平成26年度入学者の入学手続時における納入学費(翌年度の学生生徒等納付金収入となる。)で、42億7,696万円。その他の収入は、前期末未収入金収入、貸付金回収収入等で8億4,683万円。資金収入調整勘定(収入の振替控除科目)は、期末未収入金及び前期末前受金で51億5,397万円となっている。

(2)支出の部

- ①人件費支出は、予算比0.10%減の147億2,611万円(前年度比では2.25%の増)。臨時雇員等の採用減、退職者増による退職金の増等を含んでいる。
- ②教育研究経費支出は、予算比0.59%減の54億2,670万円(前年度比では9.52%の減)。予算比増減の主なものの決算額、要因等は以下のとおり。
  - ・消耗品費支出：4億4,205万円(1,463万円の増)  
神田5号館新築に伴う設備品、助教・特任教授共同研究室設備品、教育・研究用コンピュータシステム更新に伴う機器購入費等の増
  - ・印刷製本費支出：2億2,300万円(1,430万円の減)  
入試問題印刷費等の減
  - ・光熱水費支出：6億8,684万円(3,308万円の増)  
電気料金の値上げ、電力・ガス使用量の増、重油・灯油代の増
  - ・旅費交通費支出：2億2,323万円(1,783万円の減)  
入学試験実施旅費、留学プログラム出張旅費等の減、石巻専修大学における受託研究費、教員個人研究費、在外研究費等の減
  - ・奨学費支出：4億9,659万円(1,880万円の減)  
家計急変奨学金、私費外国人留学生授業料減免奨学金の減、育友会奨学金等申請者数の減
  - ・修繕費支出：2億9,505万円(4,012万円の増)  
教育・研究用コンピュータシステム更新に伴う神田視聴覚室改修他工事、生田4号館屋上塔屋漏水補修、生田8号館視聴覚教室他BSアンテナ修理、中央監視装置修理、研究室内装補修、助教・特任教授共同研究室電気設備工事、生命科学実験室理化学用恒温器修理、石巻専修大学実験室空調設備修理等の増

- ・委託費支出：15億544万円(1,266万円の減)  
教育事務所管人材派遣業務委託費、公務員試験講座等各種講座委託費、授業評価調査データ入力及び整理委託費、キャリアカウンセラー業務委託費、教育システム開発業者委託費、山中湖及び富士山中湖セミナーハウス委託管理費等の減
- ・謝礼費支出：1億794万円(2,042万円の減)  
各種講座講師謝礼費、授業科目外部講師謝礼費、教育実習謝礼等の減
- ③管理経費支出は、予算比1.01%増の16億3,915万円(前年度比では5.45%の減)。  
予算比増減の主なもの決算額、要因等は以下のとおり。
- ・修繕費支出：3,563万円(926万円の増)  
神田6号館空調設備修理、神田学生食堂給水管及び天井張替、生田食堂館給湯管修理、山中湖セミナーハウス浴室棟設備交換工事等の増
- ④借入金等利息支出は、予算どおりで1,385万円。
- ⑤借入金等返済支出は、予算どおりの返済で7億4,332万円。
- ⑥施設関係支出は、予算比0.38%増の30億2,848万円(前年度比では24.52%の減)。  
このうち建設仮勘定支出は、生田国際交流会館(仮称)、生田新体育寮・新体育館(仮称)新築工事費計上額の増
- ※⑥の主な内容については、後記の〔主な施設等整備事項〕に記載。
- ⑦設備関係支出は、予算比2.26%増の7億5,741万円(前年度比では26.57%の増)。  
このうち、教育研究用機器備品支出は、予算比3.02%増の4億8,694万円で、差異は、神田5号館新築に伴う設備品、生田9・10号館ゼミ室視聴覚設備品、生田学生サークル用掲示板購入、教員個人研究費使用額等の増、石巻専修大学における教育研究活性化設備整備費補助金による機器備品購入等の増
- ⑧資産運用支出は、予算比34.59%減の3億7,804万円(前年度比では129.00%の増)。  
退職給与引当資産への繰入支出が5,000万円、法人基金準備資産への繰入支出が1億2,800万円、施設設備準備資産への繰入支出が2億円となっている。

- ⑨その他の支出は、前期末未払金支払支出、前払金支払支出等で13億9,071万円。予備費の使用額はない。また、資金支出調整勘定(支出の振替控除科目)は、期末未払金及び前期末前払金で16億2,966万円。

〔主な施設等整備事項〕

**専修大学**

- ①神田2号館教室改修電気設備工事
- ②神田2・3号館視聴覚設備デジタル化対応通信配線工事
- ③神田5号館新築
- ④生田2号館解体関連工事
- ⑤生田4号館エレベータ更新工事
- ⑥生田7号館トイレ改修工事
- ⑦生田9号館視聴覚設備更新工事
- ⑧生田10号館防災倉庫設置工事
- ⑨生田校舎非常放送設備更新及び新設工事
- ⑩生田駐輪場防犯カメラ設置電気工事
- ⑪生田国際交流会館(仮称)新築(24年度着工：継続)
- ⑫生田第1体育館耐震改修工事
- ⑬生田北グラウンド管理棟更衣室空調設備設置工事
- ⑭生田新体育寮・新体育館(仮称)新築(24年度着工：継続)
- ⑮事務用コンピュータシステム更新工事
- ⑯教育・研究用コンピュータシステム更新工事
- ⑰伊勢原セミナーハウス空調設備更新工事

**石巻専修大学**

- ①4号館ゼミ室煙探知機増設工事

## 2 消費収支計算書

### 〔概要〕

消費収入の部では、帰属収入合計(学校法人の負債とならない収入)が予算比0.57%減の245億6,478万円となった〔前年度比では0.48%(1億1,736万円)の増〕。基本金組入額合計が、予算比43.34%減の25億615万円(前年度比では52.29%の減)となり、消費収入の部合計は、予算比8.75%増の220億5,862万円〔前年度比では14.92%(28億6,394万円)の増〕となった。

#### 基本金組入額合計の内訳

第1号基本金 25億611万円の組入(当年度取得資産及び借入金返済等の組入額)

第2号基本金 当年度組入額なし(将来取得する固定資産の取得に充てる預金等の資産の組入額)

第3号基本金 4万円の組入(校友会研究奨励基金等の組入額)

第4号基本金 当年度組入額なし(恒常的に保持すべき資金として定められた額の組入額)

消費支出の部では、消費支出の部合計が予算比0.07%減の244億1,993万円〔前年度比では1.71%(4億2,402万円)の減〕。

当年度消費収支差額は、23億6,130万円の消費支出超過額(前年度は56億4,928万円の消費支出超過額)となった。前年度繰越消費支出超過額を加えた翌年度繰越消費支出超過額は、329億5,593万円となっている。

消費収支計算書(概要) 平成25年4月1日から平成26年3月31日まで (単位:千円)

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	19,592,052	19,615,177	△ 23,125
手数料	968,804	1,030,944	△ 62,140
寄付金	250,560	261,266	△ 10,706
補助金	1,911,699	1,659,900	251,798
資産運用収入	363,333	394,354	△ 31,021
資産売却差額	225,185	225,185	0
事業収入	525,089	504,142	20,946
雑収入	869,653	873,810	△ 4,157
帰属収入合計	24,706,375	24,564,781	141,593
基本金組入額合計	△ 4,423,497	△ 2,506,152	△ 1,917,344
消費収入の部合計	20,282,878	22,058,628	△ 1,775,750

資金収支計算書における収入の部と共通の科目(寄付金は現物寄付金等を含んでいる)

計画的組入が可能なのは、第2号基本金と第3号基本金

資金収支計算書の同科目のうち、退職金支出に代わり退職給与引当金繰入額が加わる

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	14,647,641	14,635,447	12,193
教育研究経費	7,729,149	7,647,833	81,315
管理経費	1,820,827	1,899,560	△ 78,733
借入金等利息	13,857	13,856	0
資産処分差額	74,670	223,238	△ 148,568
[予備費]	(0)		150,000
消費支出の部合計	24,436,144	24,419,937	16,206
当年度消費支出超過額	4,153,266	2,361,308	
前年度繰越消費支出超過額	30,594,626	30,594,625	
翌年度繰越消費支出超過額	34,747,892	32,955,934	

資金収支計算書の同科目に教育・研究用施設・設備の当期減価償却額が加わる

資金収支計算書の同科目に教育・研究用をのぞく施設・設備の当期減価償却額が加わる

消費収支計算書特有の科目(固定資産等の除却損等を計上している)

※千円単位で表記するにあたり、千円未満を切り捨てているため、合計等において差異が生じる場合がある。



〔 内 容 〕

※前記の資金収支計算書と共通の科目があるので、消費収支計算書特有のものについて説明。

(1)消費収入の部

①寄付金は、予算比4.27%増の2億6,126万円(前年度比では19.37%の減)。

この中には、現物寄付金等が含まれている。  
内訳 受贈および編入図書 1億4,149万円  
その他の受贈資産 1,798万円

②資産売却差額は、予算どおりで2億2,518万円。  
川崎市道路拡幅事業計画に基づく生田校地の有償提供による固定資産売却差額。

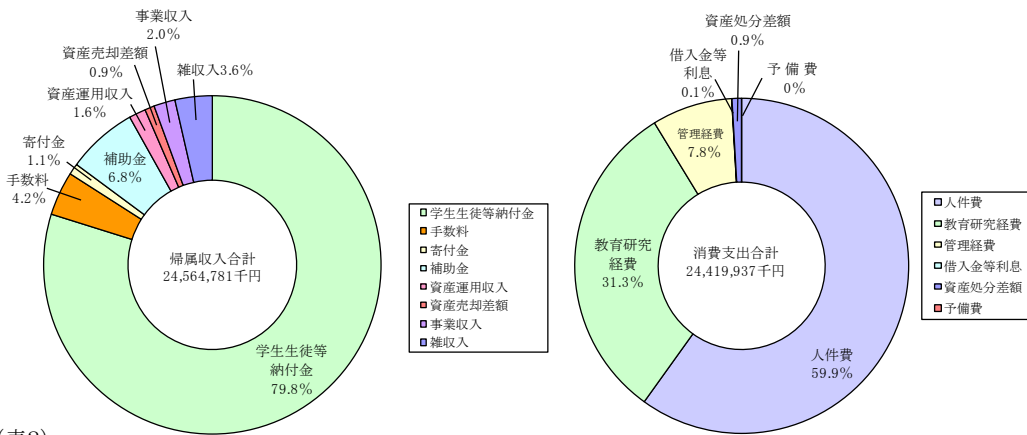
(2)消費支出の部

①人件費は、予算比0.08%減の146億3,544万円(前年度比では2.32%の増)で、退職給与引当金繰入額10億6,426万円を含んでいる。

②教育研究経費は、予算比1.05%減の76億4,783万円(前年度比では8.63%の減)で、減価償却額2億2,112万円を含んでいる。

(表1)

平成25年度 消費収支決算科目別構成



(表2)

主要財務比率

比率	算式 ( × 100 )	平成21年度 (決算)	平成22年度 (決算)	平成23年度 (決算)	平成24年度 (決算)	平成25年度 (決算)
人件費比率	人件費	54.89 %	74.24 %	55.58 %	58.51 %	59.58 %
	帰属収入	(52.6 %)	(52.9 %)	(54.0 %)	(52.8 %)	
人件費依存率	人件費	69.23 %	91.27 %	72.29 %	73.44 %	74.61 %
	学生生徒等納付金	(72.4 %)	(72.0 %)	(74.4 %)	(71.9 %)	
教育研究経費比率	教育研究経費	33.68 %	31.16 %	32.72 %	34.24 %	31.13 %
	帰属収入	(30.9 %)	(30.9 %)	(30.9 %)	(31.2 %)	
管理経費比率	管理経費	8.37 %	7.94 %	7.17 %	7.98 %	7.73 %
	帰属収入	(10.3 %)	(8.8 %)	(8.7 %)	(9.2 %)	
帰属収支差額比率	帰属収入－消費支出	1.39 %	△ 13.62 %	3.52 %	△ 1.62 %	0.59 %
	帰属収入	(3.7 %)	(4.4 %)	(3.4 %)	(4.8 %)	

備考 ( )内は日本私立学校振興・共済事業団調査による医歯系法人を除く大学法人平均値を示す。

③管理経費は、予算比4.32%増の18億9,956万円(前年度比では2.61%の減)で、減価償却額2億6,041万円を含んでいる。

④資産処分差額は、予算比198.97%増の2億2,323万円(前年度比では12.44%の増)。

固定資産処分差額内訳

建物 8,953万円

(生田2号館解体・生田9号館一部解体等に伴う建物及び建物付属設備処分差額)

構築物 270万円

(生田西グラウンド体育施設等構築物処分差額)

教育研究用機器備品 5,578万円 (6,127点)

管理用機器備品 246万円 (57点)

車両 80万円 (1台)

図書 7,196万円 (9,496冊)

### 3 貸借対照表

貸借対照表は、平成26年3月31日現在の資産、負債、基本金等の状況を前年度末と対比させて表示している。

貸借対照表 平成26年3月31日

(単位：千円)

資 産 の 部				
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増	減
固 定 資 産	125,836,726	124,480,390		1,356,335
有 形 固 定 資 産	93,728,751	92,549,829		1,178,921
土 地	35,698,987	35,760,420	△	61,433
建 物	35,663,144	35,649,496		13,648
構 築 物	2,119,428	2,261,694	△	142,265
機 械 装 置	54,853	61,885	△	7,031
教 育 研 究 用 機 器 備 品	1,922,601	2,192,773	△	270,171
管 理 用 機 器 備 品	228,057	199,445		28,612
図 書	16,133,591	15,849,344		284,246
車 両	15,763	13,528		2,234
建 設 仮 勘 定	1,892,322	561,240		1,331,082
そ の 他 の 固 定 資 産	32,107,975	31,930,561		177,413
電 話 加 入 権	18,835	18,835		0
温 泉 利 用 権	7,000	7,000		0
有 価 証 券	613,888	813,888	△	200,000
教 職 員 貸 付 金	12,547	13,384	△	836
敷 金 ・ 保 証 金	1,595	1,387		208
退 職 給 与 引 当 資 産	3,650,000	3,600,000		50,000
法 人 基 金 準 備 資 産	6,481,000	6,353,000		128,000
施 設 設 備 準 備 資 産	18,600,000	18,400,000		200,000
第 3 号 基 本 金 引 当 資 産	2,723,108	2,723,065		42
流 動 資 産	7,888,259	9,614,301	△	1,726,042
現 金 預 金	6,781,382	8,618,711	△	1,837,329
未 収 入 金	857,336	710,417		146,918
仮 払 金	114,884	159,585	△	44,700
前 払 金	130,010	112,844		17,165
短 期 貸 付 金	4,645	12,741	△	8,096
資 産 の 部 合 計	133,724,985	134,094,692	△	369,706

減価償却資産については、減価償却累計額控除後の価額。有形固定資産で減となる要因は、減価償却、除却等による。

種類  
 ・学術奨励基金引当資産  
 ・相馬学術奨励基金引当資産  
 ・校友会研究奨励基金引当資産  
 ・神山奨学基金引当資産  
 ・川島記念学生表彰基金引当資産  
 ・キャンパス等緑化基金引当資産  
 ・今村学術奨励基金引当資産  
 ・下田奨学基金引当資産

負債の部				
科目	本年度末	前年度末	増	減
固定負債	9,807,840	10,456,138	△	648,298
長期借入金	522,770	1,266,090	△	743,320
長期未払金	218,897	33,209		185,688
退職給与引当金	9,066,173	9,156,839	△	90,666
流動負債	7,324,977	7,191,229		133,747
短期借入金	743,320	743,320		0
短期未払金	1,344,954	1,268,076		76,877
前受金	4,276,967	4,296,640	△	19,673
預り金	959,736	883,193		76,542
負債の部合計	17,132,817	17,647,368	△	514,550
基本金の部				
科目	本年度末	前年度末	増	減
第1号基本金	144,995,993	142,489,884		2,506,109
第3号基本金	2,723,108	2,723,065		42
第4号基本金	1,829,000	1,829,000		0
基本金の部合計	149,548,102	147,041,949		2,506,152
消費収支差額の部				
科目	本年度末	前年度末	増	減
翌年度繰越消費支出超過額	△ 32,955,934	△ 30,594,625	△	2,361,308
消費収支差額の部合計	△ 32,955,934	△ 30,594,625	△	2,361,308
科目	本年度末	前年度末	増	減
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	133,724,985	134,094,692	△	369,706

日本私立学校振興・共済事業団、銀行からの借入金(平成27年度が返済期限)

借入金の平成26年度返済予定額

※千円単位で表記するにあたり、千円未満を切り捨てているため、合計等において差異が生じる場合がある。

### (1)資産の部

資産の部では、固定資産が、前年度末より13億5,633万円増の1,258億3,672万円。このうち、有形固定資産が建物、管理用機器備品、図書、車両、建設仮勘定の増により、前年度末より11億7,892万円増の937億2,875万円。その他の固定資産は、施設設備準備資産等の増により前年度末より1億7,741万円増の321億797万円。

流動資産は、現金預金等の減で、前年度末より17億2,604万円減の78億8,825万円。

資産の部合計は、前年度末より3億6,970万円減の1,337億2,498万円となっている。

### (2)負債の部

負債の部では、固定負債が長期借入金等の減で前年度末より6億4,829万円減の98億784万円。

流動負債は、短期未払金等の増で前年度末より1億3,374万円増の73億2,497万円。負債の部合計は、前年度末より5億1,455万円減の171億3,281万円となっている。

### (3)基本金の部

基本金の部では、第1号基本金が前年度末より25億611万円増の1,449億9,599万円。第3号基本金が前年度末より4万円増の27億2,310万円で、第4号基本金は、前年度末との増減がなく、18億2,900万円。

基本金の部合計は、前年度末より25億615万円増の1,495億4,810万円となっている。

### (4)消費収支差額の部

消費収支差額の部合計は、消費収支計算書末尾の金額と同額で329億5,593万円の消費支出超過額となっている。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた正味財産は、1,165億9,216万円となっている。

## 4 学校法人が作成する計算書類について

### 【資金収支計算書】

#### 1. 目的(学校法人会計基準第6条)

- ①当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにする。
- ②当該会計年度における支払資金(現金、当座預金、普通預金等)の収入及び支出の顛末を明らかにする。

#### 2. 特色

- ①期中の資金の増減を科目に区分して記載し、前年度繰越支払資金と次年度繰越支払資金を加えたもの。
- ②前受金・未収入金の収入項目、前払金・未払金の支出項目については、前期もしくは翌期に実際の入出金がある場合でも、当期の収入、支出項目として計上し、資金収入調整勘定、資金支出調整勘定でマイナスして入出金を取り消す。

### 【消費収支計算書】

#### 1. 目的(学校法人会計基準第15条)

当該会計年度の消費収入及び消費支出の内容及び均衡の状態を明らかにする。

#### 2. 特色

- ①消費収入は、当該会計年度の帰属収入(学校法人の負債としない収入＝学生生徒等納付金、手数料、補助金など)から基本金(※別記)に組み入れる額を控除して計算する。
- ②消費支出は、当該会計年度において消費する資産の取得価額及び用役(社会に役立つ働き)の対価に基づいて計算する。

### 【消費収支計算書と資金収支計算書の相違点】

#### 1. 資産・負債の増減取引除外

資金収支計算書上の「資産・負債の増減となる取引」は消費収支計算書から除外され、貸借対照表に反映される。

- 借入金等収入、前受金収入、貸付金回収収入、前期末前受金、前年度繰越支払資金、退職金支出、借入金等返済支出、施設関係支出、資産運用支出、前期末未払金支出、期末未払金、次年度繰越支払資金など

#### 2. 消費収支固有の取引仕訳

資金の動きは伴わないが、当年度の消費支出となる資産の消費或いは用役の収受、及び消費収入とみなされるものを、消費収支計算書に追加する。

- 現物寄付金、基本金組入額合計、退職給与引当金繰入額、減価償却額など

### 【貸借対照表】

#### 1. 目的

- ①学校法人の財政状態が健全であるかどうかの情報を提供する。
- ②教育研究のために必要な資産の保有状況を表示する。

#### 2. 特色

- ①一会計期間の期末時点での財政(財産)状態を示す。これは期中の各取引を複式簿記の原則に従って記帳し導き出される。
- ②記載金額は期末時点の財産価値ではなく、当初の取得価額で計上されたものである(取得原価主義)。

### 【基本金】

学校法人会計基準第29条は「学校法人が、その諸活動の計画に基づき必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その帰属収入のうちから組み入れた金額を基本金とする。」と規定し、基本金の種類として、第1号～第4号までが列挙されている。

- ①第1号基本金：校地、校舎、機器備品及び図書などの固定資産の取得価額
- ②第2号基本金：上記の固定資産を取得する目的で留保した預金などの資産の額
- ③第3号基本金：奨学基金、研究基金及び海外学術基金などの目的で運用する資産の額
- ④第4号基本金：学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の額

### ◆参考◆

「Q & A 学校法人の新会計実務」

監査法人トーマツ パブリック・インダストリーグループ編／第一法規株式会社発行

「加盟大学財務状況の推移(平成5年度～平成24年度)」について」社団法人日本私立大学連盟

[http://www.shidairen.or.jp/blog/info\\_c/investigation\\_c/2014/01/31/14164](http://www.shidairen.or.jp/blog/info_c/investigation_c/2014/01/31/14164) アクセス日付:平成26年3月31日





## V その他の資料

### 1 平成25年度卒業・修了者数

#### (1) 専修大学

(学部)				
区分	学部	学科〔専攻〕	卒業者	
一部	経済学部	経済学科	496	
		国際経済学科	216	
	法学部	法律学科	548	
		政治学科	168	
	経営学部	経営学科	576	
	商学部	マーケティング学科	495	
		会計学科	244	
	文学部	日本語日本文学科		
		日本語学専攻	9	
		日本文学文化専攻	10	
		日本語学科	69	
		日本文学文化学科	109	
		英語英米文学科	151	
		人文学科		
		哲学人間学専攻	9	
		歴史学専攻	13	
		環境地理学専攻	6	
		社会学専攻	11	
		哲学科	67	
		歴史学科	119	
		環境地理学科	39	
		人文・ジャーナリズム学科	109	
	心理学科	7		
ネットワーク情報学部	ネットワーク情報学科	229		
人間科学部	心理学科	70		
	社会学科	148		
一部計			3,918	
二部	経済学部	経済学科	78	
	法学部	法律学科	105	
	商学部	マーケティング学科	98	
二部計			281	
学部合計			4,199	

※平成24年度卒業延期許可者と  
平成25年度学期末卒業者を含む。

#### (専門職大学院)

課程	研究科	専攻	修了者
専門職学位	法務	法務	39

#### (2) 石巻専修大学

(学部)		
学部	学科	卒業者
理工学部	基礎理学科	35
	機械工学科	42
	情報電子工学科	41
	生物生産工学科	37
経営学部	経営学科	229
学部合計		384

(大学院)			
課程	研究科	専攻	修了者
修士	経済学	経済学	11
		法学	10
	文学	日本語日本文学	5
		英語英米文学	0
		哲学	1
		歴史学	8
		地理学	1
		社会学	3
	経営学	経営学	10
		商学	5
	商学	商学	13
		会計学	13
	修士課程計		
博士後期	経済学	経済学	0
		法学	0
	文学	民法法学	0
		公法学	1
		日本語日本文学	2
		英語英米文学	0
		哲学	0
		歴史学	0
	地理学	0	
	社会学	0	
	心理学	0	
	経営学	経営学	1
		商学	0
商学	商学	0	
	会計学	0	
博士後期課程計			4
大学院合計			85

※上記修了者の他に、専修大学学位規程  
第14条第1項のただし書きによる学位取得者が1人いる。

(大学院)			
課程	研究科	専攻	修了者
修士	理工学	物質工学	1
		機械システム工学	1
		生命科学	2
		経営学	2
	修士課程計		
博士後期	理工学	物質機能工学	1
		生命環境科学	2
	経営学	経営学	0
博士後期課程計			3
大学院合計			9

## 2 卒業後の進路(学部・学科)

### (1) 専修大学 (二部を除く)

卒業後の進路状況

※就職率は希望者に対する比率である。

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
就職	就職者	2,360	2,510	2,670	2,661	2,754
	就職率※	91.2%	90.2%	85.6%	88.8%	90.6%
進学	大学院進学者	105	117	101	94	102
	留学・学士入学・専門学校等進学者	86	95	113	93	69
受験準備(公務員・資格・進学等)		238	264	218	203	179

平成25年度卒業者の主な就職先

住友林業(株)、大和ハウス工業(株)、積水ハウス(株)、(株)関電工、(株)ブルボン、アサヒビール(株)、(株)伊藤園、日清オイリオグループ(株)、山崎製パン(株)、(株)サンエー・インターナショナル、タカラスタンダード(株)、クリナップ(株)、大塚製薬(株)、協和発酵キリン(株)、Meiji Seikaファルマ(株)、ライオン(株)、JFEスチール(株)、(株)LIXIL、YKK AP(株)、ダイキン工業(株)、カヤバ工業(株)、ミネベア(株)、三菱重工業(株)、富士通(株)、横河電機(株)アイシン・エイ・ダブリュ(株)、スズキ(株)、ボッシュ(株)、オリンパス(株)、三菱鉛筆(株)、(株)パイロットコーポレーション、丸紅(株)、三菱食品(株)、国分(株)、(株)日本アクセス、(株)バンダイ、アルフレッサ(株)、(株)三越伊勢丹ホールディングス、(株)セブン-イレブン・ジャパン、(株)りそなホールディングス、(株)三菱東京UFJ銀行、(株)三井住友銀行、(株)みずほフィナンシャルグループ、日本マスタートラスト信託銀行(株)、(株)横浜銀行、中央労働金庫、野村證券(株)、みずほ証券(株)、大和証券(株)、日本生命保険(相)、三井住友海上火災保険(株)、(株)損害保険ジャパン、住友不動産販売(株)、東急リバブル(株)、東海旅客鉄道(株)、小田急電鉄(株)、東日本旅客鉄道(株)、日本通運(株)、(株)日立物流、全日本空輸(株)、(株)日本旅行、日本放送協会、(株)福島民報社、エイベックス・グループ・ホールディングス(株)、(株)東京ニュース通信社、(株)東洋経済新報社、ソフトバンク(株)、KDDI(株)、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)、日本アイ・ビー・エム(株)、伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)帝国データバンク、(株)ミリアルリゾートホテルズ、(株)プリンスホテル、日本赤十字社、日本私立学校振興・共済事業団、日本中央競馬会、(株)船井総合研究所、(株)エヌ・ティ・ティエムイー、アクセンチュア(株)、新日本有限責任(監)、あらた(監)、(株)JALスカイ、(独)国際協力機構、ヤフー(株)、公立学校教員(小学校・中学校)、国家公務員一般職(法務省・厚生労働省・防衛省・国土交通省・会計検査院)、国税専門官、法務教官、裁判所職員一般職、自衛隊幹部候補生、東京消防庁、警視庁(警察官)

### (2) 石巻専修大学

卒業後の進路状況

※就職率は希望者に対する比率である。

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
就職	就職者	275	251	263	253	283
	就職率※	90.8%	80.4%	90.7%	93.0%	93.1%
進学	大学院進学者	19	21	7	6	5
	留学・学士入学・専門学校等進学者	14	8	6	14	5
受験準備(公務員・資格・進学等)		17	14	22	17	7

平成25年度卒業者の主な就職先

理工学部

(株)白謙蒲鉾店、(株)ツルハ、南三陸農業協同組合、スズキ(株)、(株)小松製作所、(株)アクティオ、宏和工業(株)、(株)ユアテック、(株)エヌ・ティ・ティ エムイー、(株)ミヤギタノイ、東北電子工業(株)、(株)ライフフーズ、東日本フーズ(株)、(株)東京めいらく、みやぎ登米農業協同組合、秋田県警察本部

経営学部

(株)ヤマザワ、(株)ヨークベニマル、マックスバリュ南東北(株)、みやぎ生活協同組合、ヤマト運輸(株)、カメイ(株)、(株)石巻青果、(株)七十七銀行、(株)福島銀行、(株)北日本銀行、石巻商工信用組合、石巻市役所、栗原市消防本部、千葉県警察本部、埼玉県警察本部、海上自衛隊幹部候補生

### 3 公開講座等の開講状況

専修大学神田キャンパスで実施したもの

講座名	テーマ	実施期間	主催
シンポジウム	「再生するコミュニティ-伝統・継承・創造-」	5月	専修大学社会知性開発研究センター (社会関係資本研究センター)
公開講座	「平安京右京三条一坊六町、藤原良相邸の調査」	6月	専修大学人文科学研究所
シンポジウム	「明るい選挙を考える-地方からの改革」	6月	専修大学社会科学研究所
シンポジウム	「動物と放射能」	6月	・(社)日本ベンクラブ ・専修大学文学部
学術講演会	「Japan-Pakistan Friendship/yesterday, today and tomorrow」	7月	専修大学法学部
国際カンファレンス	「東アジアの社会関係資本を探る -コミュニティ、社会的信頼、セーフティネットの観点から-」	7月	専修大学社会知性開発研究センター (社会関係資本研究センター)
共同公開講座	「地域と共生し地域を育てる中小企業の経営戦略」	8月	・専修大学商学研究科 ・東京信用保証協会
課外講座	「TOEIC(R)講座(神田開講講座)＜前期＞」	8月	専修大学エクステンションセンター
国際シンポジウム	「Development and current situations of Cognitive Behavioural Therapy for children and/or persons with disabilities-障がい児・者への認知行動療法 基礎研究から応用実践へ その発展と今-」	8月	専修大学社会知性開発研究センター (心理科学研究センター)
大学院公開講座	PART1「自民党復権の背景と課題」 PART2「憲法改正の動向と問題点」	10月～11月	専修大学大学院
学術講演会	「中国刑法の解釈上の特殊性と基本的視座」	10月	専修大学法学部
政策科学シンポジウム	「日本経済の課題-アベノミクスを総点検する-」	10月	専修大学大学院経済学研究科
シンポジウム	「【関東大震災90周年記念】大正デモクラシー-もう一つの可能性 -吉野作造・加賀乙彦・末弘嚴太郎をめぐって-」	11月	・専修大学社会科学研究所 ・NPO法人 現代の理論・社会フォーラム
シンポジウム	「生理心理学のフロンティア」	11月	専修大学社会知性開発研究センター (心理科学研究センター)
シンポジウム	「J・F・ケネディの遺産」	11月	・専修大学社会科学研究所 ・日本臨床政治学会
課外講座	「TOEIC(R)講座(神田開講講座)＜後期＞」	2月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	「平安皇朝の国際交流と源氏物語」	3月	専修大学人文科学研究所
シンポジウム	「～福島原発事故 - 総理大臣として考えたこと～」	3月	・(社)日本ベンクラブ ・専修大学文学部

専修大学生田キャンパスで実施したもの

講座名	テーマ	実施期間	主催
春の企画展	「人物でめぐる図書館 -書棚の住人からあなたへ-」	4月～6月	専修大学図書館
課外講座	「秘書検定講座」	5月～6月	専修大学エクステンションセンター
課外講座	「英会話講座(前期)」	5月～7月	専修大学エクステンションセンター
課外講座	「イタリア語講座」	5月～7月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	「転換期の新興国経済」	5月～7月	専修大学経済学部
公開講演会	「中小企業の会計基準」	7月	専修大学会計学研究所
研修プログラム	「高校教員対象 研修プログラム」	7月	専修大学文学部
公開講座	「初心者のためのインターネット講習会」	8月	専修大学情報科学センター
高校生のための経営学実践講座	「マネジャー体験を先取りしよう！心をつかむハンバーガーの売り方とは」	8月	専修大学経営学部
課外講座	「TOEIC(R)講座(生田開講講座)＜夏期＞【初級コース】」	9月	専修大学エクステンションセンター
課外講座	「TOEIC(R)講座(生田開講講座)＜夏期＞【中級コース】」	9月	専修大学エクステンションセンター
課外講座	「英会話講座(後期)」	10月～12月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	「歴史を紐とく「造られた『偶像/虚像』とその時代」	10月～11月	・専修大学エクステンションセンター ・川崎市教育委員会
シンポジウム	「カレッジスポーツの力を考える～大学スポーツ復活に向けて～」	10月	専修大学スポーツ研究所
国際交流特別講演会	「やさしい英語による経済学講座」	11月	専修大学国際交流センター
特別展	フランス革命と自由民権	11月	専修大学図書館
シンポジウム	「Ecrire l'histoire d'une expérience. Révolution, Mémoires et histoire de Conventionnels」	11月	専修大学図書館
写真展	「めぐみちゃんと家族のメッセージ～横田滋写真展」	11月～12月	川崎市
講演会	「環境会計のすすめ」	12月	専修大学会計学研究所
公開講演会	「太陽系惑星探査の最前線」	12月	専修大学自然科学研究所
講習会	「市民のためのFaceBook講習会」	1月	専修大学情報科学研究所
課外講座	「TOEIC(R)講座(生田開講講座)＜春期＞【中級コース】」	2月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	少年少女レスリング教室 「体力測定&ボールを使ったトレーニングを実践しよう！～球技から学ぶ～」	3月	・専修大学スポーツ研究所
小中学生向け体験教室	アメリカンフットボール	3月	・川崎リトル・ジュニアグリーンマシン ・専修大学体育会アメリカンフットボール部

専修大学サテライトキャンパスで実施したもの

講座名	テーマ	実施期間	主催
公開講座	「The 寺子屋11 初級講座」	5月～6月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	「The 寺子屋11 中級講座」	5月～6月	専修大学エクステンションセンター
外国語教育研究会	「はじめて学ぶ外国語のおもしろさと学び方 —多言語を学ぶと世界が見えてくる!」	5月	専修大学LL研究室
課外講座	「イタリア語講座」	5月～7月	専修大学エクステンションセンター
外国語教育研究会	「内容言語統合型学習(CLIL)によるこれからの語学教育ワークショップ」	7月	専修大学LL研究室
公開研究会	「中・高齢者の身体活動様式について～加速度計付き歩数計のデータから考える～」	7月	専修大学スポーツ研究所
KS特別講演 「楽しく学べるソーシャル・ビジネス」	「ご近所の課題から、未来の社会づくりに関わる大きな問題まで、解決するのはだれ?」	7月	・専修大学KSソーシャル・ビジネス・アカデミー ・川崎市
公開講座	「地域力・市民力を育むソーシャル・ビジネス」	8月～9月	・専修大学KSソーシャル・ビジネス・アカデミー ・川崎市
課外講座	「ビジネス中国語検定試験対策講座」	9月	専修大学エクステンションセンター
公開講座	「自然環境と人間生活の接点を考える」	11月	・専修大学自然科学研究所 ・専修大学文学部
外国語教育研究会	「中国語映画の字幕製作—その面白さと難しさ」	12月	専修大学LL研究室
公開研究会	「なぜ人は泳ぎはじめたのか?」	12月	専修大学スポーツ研究所
公開講義	リレー講義「CSRとソーシャル・ビジネス」	12月～2月	・専修大学KSソーシャル・ビジネス・アカデミー ・川崎市
課外講座	「TOEIC (R) 講座 (生田開講講座) <春期>【初級コース】」	2月	専修大学エクステンションセンター
国際シンポジウム	「モン地域五カ国域内における現地中小企業の貿易活動の調査」中間報告	3月	・専修大学社会知性開発研究センター (国際経営研究センター)

石巻専修大学キャンパスで実施したもの

講座名	テーマ	実施期間	主催
公開講座	「復興ボランティア学」	4月～8月	石巻専修大学
公開シンポジウム	「ナイル・エチオピア地域と東北の復興」	4月	・日本ナイル・エチオピア学会 ・石巻専修大学復興共生プロジェクト
みやぎ県民大学 「石巻専修大学開放講座」	「今、人間として生きるとは?」	6月～7月	・宮城県教育委員会 ・石巻専修大学他
コンサート	「ドイツカンマーソリステン2013『ドイツと日本・絆コンサート』」	7月	石巻専修大学
青少年のための科学の祭典	「石巻大会」	8月	・「青少年のための科学の祭典2013」 石巻大会実行委員会
コンサート	「石巻・東松島げんきコンサートII」	9月	・石巻・東松島げんきコンサート実行委員会
シンポジウム	「自然災害と大学」	11月	石巻専修大学FD委員会
フォーラム	「大学のもつパワーを生かし、震災復興を考えるフォーラム」	11月	石巻専修大学共創研究センター
体験教室	「3Dプリンターによる立体模型(門脇小学校)製作の体験教室」	11月	石巻専修大学
復興共生プロジェクト	「まちづくり懇話会」	12月～2月	石巻専修大学

学外施設で実施したもの(テーマ下枠は開催場所)

講座名	テーマ	実施期間	主催
展示	「石巻市沿岸部の復元立体模型の完成展示」 【石巻信用金庫開北支店(宮城県石巻市)】	6月	石巻専修大学
社会知性フォーラム	「-まつど 今昔物語-」 【松戸市民会館ホール(千葉県松戸市)】	7月	・専修大学 ・専修大学松戸中学校・高等学校
地方自治体との連携講座	北上市民大学「アベノミクスで日本経済は復活するか—異次元金融緩和の功罪」 【北上市生涯学習センター(岩手県北上市)】	7月	・専修大学エクステンションセンター ・岩手県北上市
地方自治体との連携講座	市民大学講座「三行半の世界～佐渡の事例にふれて～」 【佐渡島開発総合センター(新潟県佐渡市)】	8月	・専修大学エクステンションセンター ・新潟県佐渡市
日本・ベトナム外交関係樹立40周年 記念国際シンポジウム	「越日関係:40年の回顧と将来の方向性」 【ベトナムハノイ市】	9月	・専修大学社会科学研究所 ・ベトナム社会科学院
地方自治体との連携講座	鶴岡市民大学講座「歴史から学ぶ—風土が培った庄内の地域像—」 自由民権運動は私たちに何を残してくれたのか—山形における民権運動の展開とその 伝承に触れて— 【鶴岡市中央公民館(山形県鶴岡市)】	9月	・専修大学エクステンションセンター ・山形県鶴岡市
ISU健康支援プログラム	「元気はつらつ!健康習慣セミナー」 【稲井公民館(宮城県石巻市)】	10月～12月	・石巻専修大学共創研究センター ・石巻市
合同シンポジウム	「変わりゆく東アジアの経済と企業—新たな発展を目指して」 【檀国大学校天安キャンパス(韓国)】	10月	・専修大学 ・檀国大学校(韓国)
地方自治体との連携講座	横須賀市市民大学①「弁護士が教える社会生活上のトラブル対処法II」 【ウェルシティ市民プラザ横須賀生涯学習センター(まなびかん)(神奈川県横須賀市)】	10月～12月	・専修大学エクステンションセンター ・横須賀市
地方自治体との連携講座	横須賀市市民大学②「クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)の向上をめざして」 【ウェルシティ市民プラザ横須賀生涯学習センター(まなびかん)(神奈川県横須賀市)】	10月～11月	・専修大学エクステンションセンター ・横須賀市
共同企画展	「近代日本の幕開けと私立法律学校—神田学生街と法典論争—」 【明治大学博物館特別展示室(東京都千代田区)】	1月～2月	・専修大学、中央大学、日本大学、明治大学
ISU健康支援プログラム	「認知症予防のための運動教室」 【向陽地区コミュニティセンター(宮城県石巻市)】	1月～2月	・石巻専修大学共創研究センター ・石巻市
展示	「明日のためのミュージアム」 【宮城エクスプレス(株)新社屋5階(宮城県石巻市)】	2月～3月	・石巻専修大学大学開放センター



## 4 平成25年度学費

### (1) 専修大学

入学金 一部 260,000円 二部 130,000円 大学院・専門職大学院 200,000円

一部(経済学部、法学部、経営学部、商学部) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	20,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(文学部日本語学科、文学部日本文学文化学科、文学部英語英米文学科)

(単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	30,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(文学部哲学科、人文・ジャーナリズム学科) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	25,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(文学部歴史学科) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	40,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(文学部環境地理学科) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第1年度	第2年度	732,000	675,000	675,000	675,000
	第3年度	第4年度	732,000	675,000	675,000	675,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	55,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(ネットワーク情報学部) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	852,000	825,000	825,000	825,000
	第3年度	第4年度	852,000	825,000	825,000	825,000
	第1年度	第2年度	852,000	825,000	825,000	825,000
	第3年度	第4年度	852,000	825,000	825,000	825,000
施設費	各年度	250,000	230,000	230,000	230,000	
教育充実費	各年度	70,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(人間科学部心理学科) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	765,000	735,000	735,000	735,000
	第3年度	第4年度	765,000	735,000	735,000	735,000
	第1年度	第2年度	765,000	735,000	735,000	735,000
	第3年度	第4年度	765,000	735,000	735,000	735,000
施設費	各年度	230,000	230,000	230,000	230,000	
教育充実費	各年度	90,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

一部(人間科学部社会学科) (単位：円)

費目	入学年度		平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	第1年度	第2年度				
授業料	第1年度	第2年度	735,000	695,000	695,000	695,000
	第3年度	第4年度	735,000	695,000	695,000	695,000
	第1年度	第2年度	735,000	695,000	695,000	695,000
	第3年度	第4年度	735,000	695,000	695,000	695,000
施設費	各年度	230,000	200,000	200,000	200,000	
教育充実費	各年度	40,000	—	—	—	
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000	
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000	

二部 (単位：円)

費目	入学年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	授業料	第1年度	460,000	405,000	405,000
	第2年度	460,000	405,000	405,000	405,000
	第3年度	460,000	405,000	405,000	405,000
	第4年度	460,000	405,000	405,000	405,000
施設費	各年度	130,000	100,000	100,000	100,000
教育充実費	各年度	20,000	—	—	—
実験実習料	各年度	—	3,000	3,000	3,000
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000

修士課程  
(標準修業年限が4年の修士課程は除く) (単位：円)

費目	入学年度	平成25年度	平成24年度
	授業料	第1年度	470,000
	第2年度	470,000	470,000
施設費	第1年度	120,000	120,000
	第2年度	120,000	120,000
教育充実費	各年度	※1別表記載	—
実験実習料	各年度	—	5,000
学会費	各年度	—	2,000

教育充実費別表(※1) (単位：円)

専攻	教育充実費
経済学専攻	20,000
法学専攻	20,000
日本語日本文学専攻	30,000
英語英米文学専攻	20,000
哲学専攻	25,000
歴史学専攻	40,000
地理学専攻	55,000
社会学専攻	40,000
心理学専攻	100,000
経営学専攻	20,000
商学専攻	20,000
会計学専攻	20,000

標準修業年限が4年の修士課程

経済学研究科修士課程経済学専攻 (単位：円)

費目	入学年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
	授業料	第1年度	352,000	352,000	352,000
	第2年度	352,000	352,000	352,000	352,000
	第3年度	352,000	352,000	352,000	352,000
	第4年度	352,000	352,000	352,000	352,000
施設費	各年度	120,000	120,000	120,000	120,000
教育充実費	各年度	20,000	—	—	—
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000	5,000
学会費	各年度	—	2,000	2,000	2,000

博士後期課程 (単位：円)

費目	入学年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
	授業料	第1年度	450,000	450,000
	第2年度	450,000	450,000	450,000
	第3年度	450,000	450,000	450,000
施設費	各年度	120,000	120,000	120,000
教育充実費	各年度	※2別表記載	—	—
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000
学会費	各年度	—	2,000	2,000

教育充実費別表(※2) (単位：円)

専攻	教育充実費
経済学専攻	20,000
民法法学専攻	20,000
公法学専攻	20,000
日本語日本文学専攻	30,000
英語英米文学専攻	20,000
哲学専攻	25,000
歴史学専攻	40,000
地理学専攻	55,000
社会学専攻	30,000
心理学専攻	50,000
経営学専攻	20,000
商学専攻	20,000
会計学専攻	20,000

法務研究科(法科大学院)法務専攻 (単位：円)

費目	入学年度	平成25年度	平成24年度	平成23年度
	授業料	第1年度	950,000	950,000
	第2年度	950,000	950,000	950,000
	第3年度	950,000	950,000	950,000
施設費	各年度	260,000	260,000	260,000
教育充実費	各年度	20,000	—	—
実験実習料	各年度	—	5,000	5,000
学会費	各年度	—	2,000	2,000

## (2) 石巻専修大学

入学金 学部 230,000円 大学院 200,000円

理工学部 (単位：円)

費目	入学年度			
	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
授業料	第1年度	968,000	968,000	968,000
	第2年度	968,000	968,000	968,000
	第3年度	968,000	968,000	968,000
	第4年度	968,000	968,000	968,000
施設費	各年度	260,000	260,000	260,000
教育充実費	各年度	93,000	—	—
実験実習料	各年度	—	80,000	80,000
学会費	各年度	—	3,000	3,000

経営学部 (単位：円)

費目	入学年度			
	平成25年度	平成24年度	平成23年度	平成22年度
授業料	第1年度	673,000	673,000	673,000
	第2年度	673,000	673,000	673,000
	第3年度	673,000	673,000	673,000
	第4年度	673,000	673,000	673,000
施設費	各年度	210,000	210,000	210,000
教育充実費	各年度	33,000	—	—
実験実習料	各年度	—	20,000	20,000
学会費	各年度	—	3,000	3,000

人間学部人間文化学科 (単位：円)

費目	入学年度	
	平成25年度	平成24年度
授業料	第1年度	700,000
	第2年度	700,000
	第3年度	700,000
	第4年度	700,000
施設費	各年度	260,000
教育充実費	各年度	50,000
実験実習料	各年度	—
学会費	各年度	3,000

人間学部人間教育学科 (単位：円)

費目	入学年度	
	平成25年度	平成24年度
授業料	第1年度	710,000
	第2年度	710,000
	第3年度	710,000
	第4年度	710,000
施設費	各年度	260,000
教育充実費	各年度	70,000
実験実習料	各年度	—
学会費	各年度	3,000

理工学研究科修士課程 (単位：円)

費目	入学年度	
	平成25年度	平成24年度
授業料	第1年度	953,000
	第2年度	953,000
施設費	各年度	260,000
教育充実費	各年度	83,000
実験実習料	各年度	—
学会費	各年度	3,000

経営学研究科修士課程 (単位：円)

費目	入学年度	
	平成25年度	平成24年度
授業料	第1年度	658,000
	第2年度	658,000
施設費	各年度	210,000
教育充実費	各年度	23,000
実験実習料	各年度	—
学会費	各年度	3,000

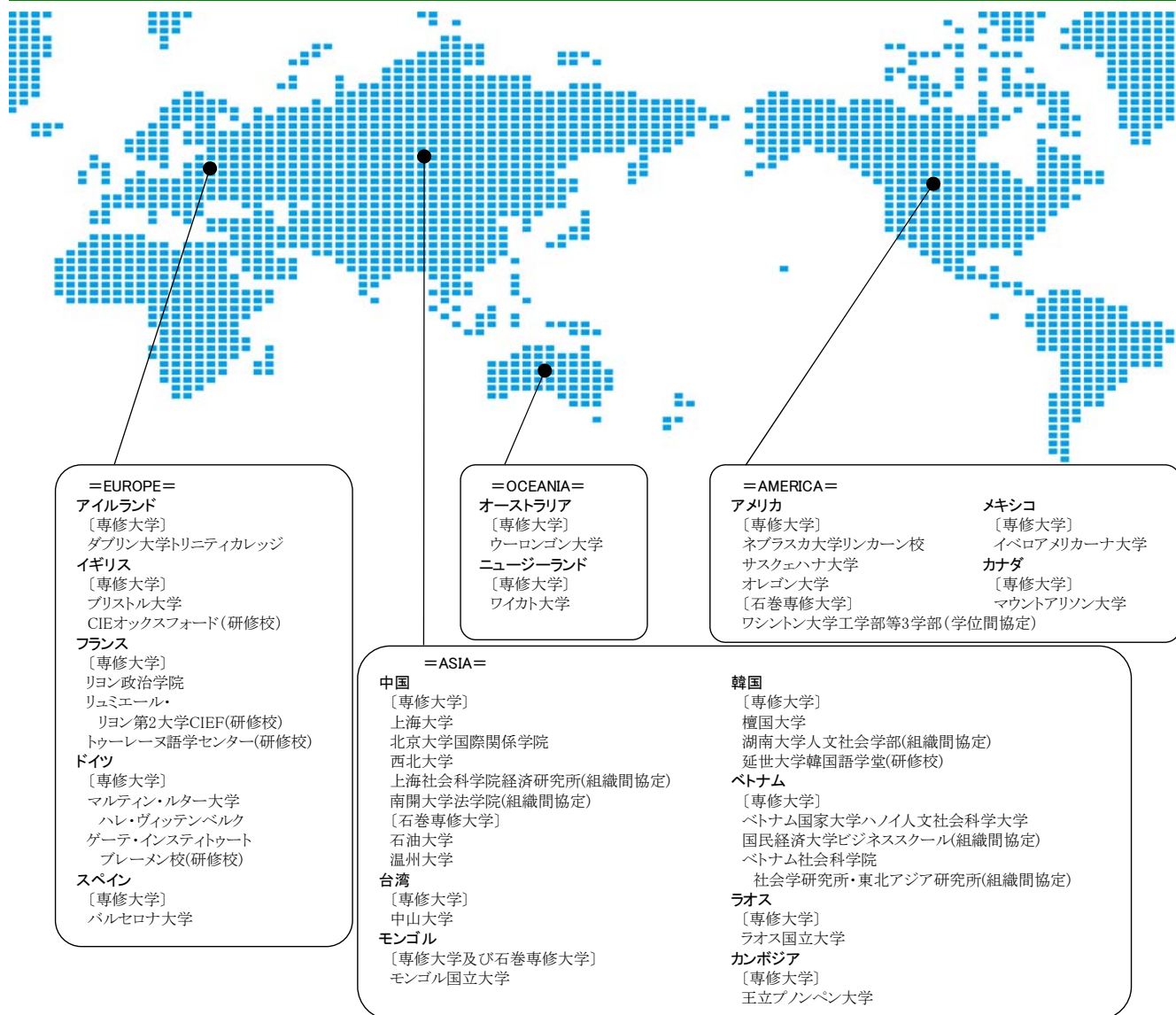
理工学研究科博士後期課程 (単位：円)

費目	入学年度		
	平成25年度	平成24年度	平成23年度
授業料	第1年度	774,000	774,000
	第2年度	774,000	774,000
	第3年度	774,000	774,000
施設費	各年度	180,000	180,000
教育充実費	各年度	83,000	—
実験実習料	各年度	—	80,000
学会費	各年度	—	3,000

経営学研究科博士後期課程 (単位：円)

費目	入学年度		
	平成25年度	平成24年度	平成23年度
授業料	第1年度	534,000	534,000
	第2年度	534,000	534,000
	第3年度	534,000	534,000
施設費	各年度	130,000	130,000
教育充実費	各年度	23,000	—
実験実習料	各年度	—	20,000
学会費	各年度	—	3,000

## 5 国際交流協定校・国際交流組織間協定校・研修校(平成26年3月31日現在)



## 6 付属校

学校法人専修大学附属高等学校	〒168-0063 東京都杉並区和泉4-4-1
(設置校)専修大学附属高等学校	
学校法人専修大学松戸高等学校	〒271-8585 千葉県松戸市上本郷2-3621
(設置校)専修大学松戸高等学校, 専修大学松戸中学校, 専修大学松戸幼稚園	
学校法人北上学園	〒024-8508 岩手県北上市新穀町2-4-64
(設置校)専修大学北上高等学校, 専修大学北上福祉教育専門学校, 専修大学北上幼稚園	
学校法人玉名学園	〒869-0293 熊本県玉名市岱明町野口1046
(設置校)専修大学玉名高等学校	





Devoted to the Development  
of Socio-Intelligence

**SENSHU**  
**UNIVERSITY**